



特254

912

二十六年十月

大陸研究會西日本大會速記錄

門司鮮滿支案內所

始



特 254  
912



主 催

南滿洲鐵道株式會社  
華北交通株式會社

後 援

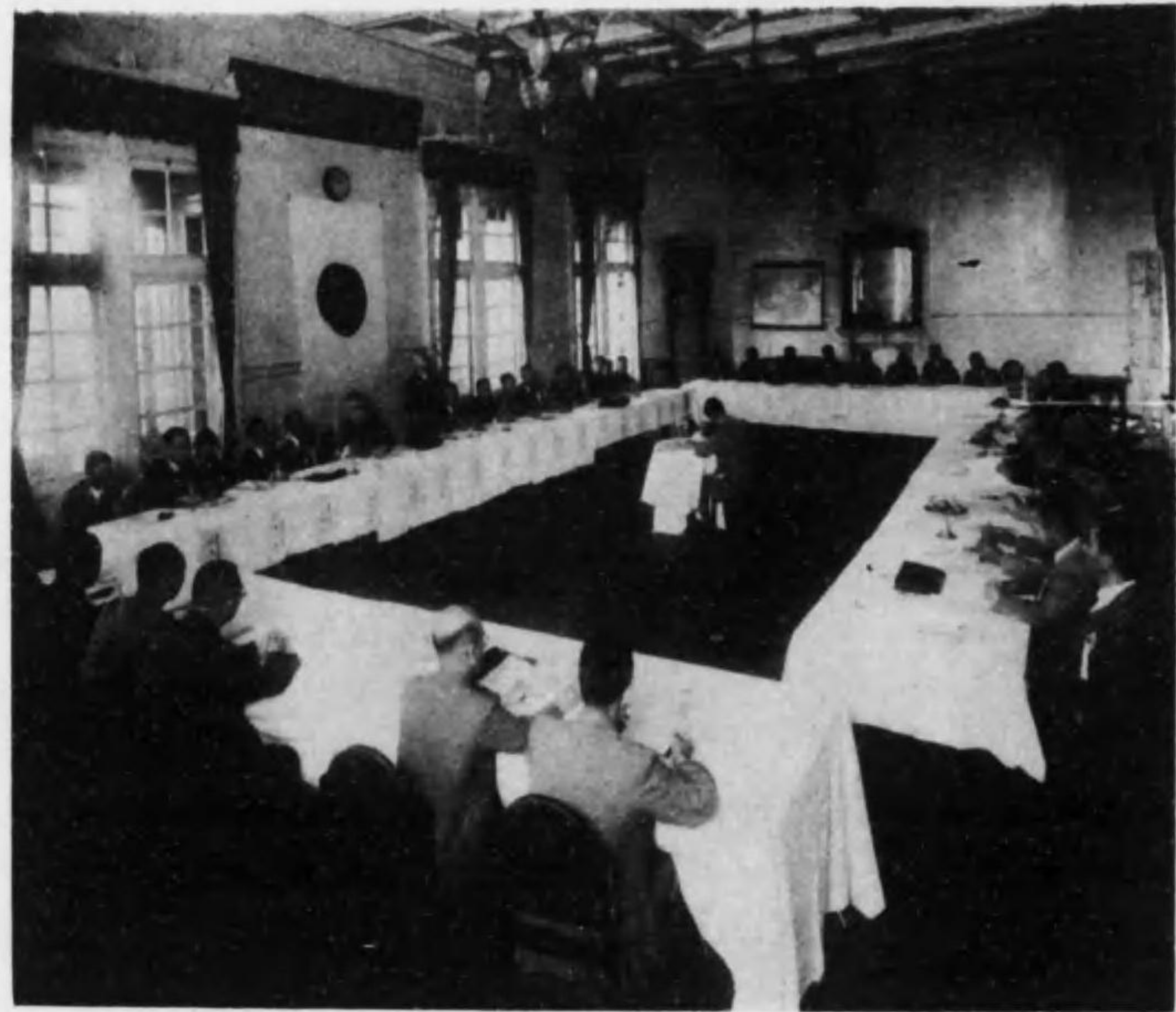
駐日滿洲帝國大使館  
日滿鑛工技術員協會  
滿洲移住協會

期 日

昭和十六年十月二十五日午前十時

會 場  
門 司 俱 樂 部





會 場 全 景





記 念 撮 影

# 大陸研究會西日本大會次第

一、開會  
 一、國民儀禮  
 一、挨拶

一、來賓贊詞

一、講演

滿洲事情  
 北支蒙疆事情  
 世界動亂と支那問題に就て  
 一、各大陸研究會情況(結成順)

吳日滿支協會  
 宮崎大陸事情研究會

滿鐵東京支社長  
 華北交通東京支社長  
 駐日滿洲帝國大使館理事官  
 日滿鑛工技術員協會常務理事  
 滿洲移住協會弘報部長  
 大政翼贊會東亞局長

駐日滿洲帝國大使館理事官  
 華北交通東京支社長  
 大政翼贊會

古山勝夫  
 島村善一郎  
 中村善一  
 隈部義雄  
 山名義鶴  
 永井柳太郎閣下  
 (代理 中保連絡部副部長)

中村善一  
 島西利八郎  
 坂西利八郎

大分大陸研究會  
 佐賀大陸研究會  
 鹿兒島西日本興亞聯盟  
 廣島興亞親善協會  
 別府大陸研究會  
 松江大陸研究會  
 福岡大陸研究會  
 熊本大陸研究會  
 外各新聞社側

(準備進行中)  
 (準備進行中)

一、閉  
 二、懇  
 會談

大陸研究會西日本大會出席者

(順序不同)

一、大陸研究會側

吳日滿支協會	吳專門大店取締役社長	宮崎大陸事情研究會	日向日日新聞社	大分大陸研究會	佐賀大陸研究會	西日本興亞聯盟(鹿兒島)	鹿兒島新聞社主筆	鹿兒島商工會議所理事
吳專門大店取締役社長	吳專門大店取締役	宮崎縣產業獎勵館長	日向日日新聞社	大分新聞社編輯局長	佐賀合同新聞社長	佐賀合同新聞編輯局長	堀小原	
野村義郎	鎌田八月三郎	竹內龜人	增澤	溝口哲郎	中尾都昭	中島增美	堀小原	
野村義郎	鎌田八月三郎	竹內龜人	增澤	溝口哲郎	中尾都昭	中島增美	堀小原	
野村義郎	鎌田八月三郎	竹內龜人	增澤	溝口哲郎	中尾都昭	中島增美	堀小原	

興亞親善協會(廣島)

中國新聞社事業部長

別府大陸研究会

別府市觀光課長

大分高等商業學校講師

松江大陸研究会

松江商工會議所理事

福岡大陸研究会(準備進行中)

福岡日日新聞社

福岡日日新聞社

熊本大陸研究会

九州日日新聞社政治部長

九州新聞社編輯局理事

二、新聞社側

伊豫新報社常務取締役

南豫時事新聞社取締役編輯局長

防長新聞社

長崎日日新聞社編輯局長

長尾一郎

飯倉士郎

都甲文雄

大田直行

松尾和夫

船津和夫

北場英史

安井源吉

小泉源吉

永見貞一

大石利德

三、來賓

大政翼贊會

興亞同盟總務委員

貴族院議員

東亞局連絡部副部長

陸軍中將

坂西利八郎

中保與作

四、主催並後援者側

南滿洲鐵道株式會社

東京支社長

東京支社第一弘報係主任

東京支社旅客係主任

華北交通株式會社

東京支社長

東京支社弘報係長

東京支社秘書

駐日滿洲帝國大使館

長崎民友新聞社編輯局長

關門日日新聞社編輯局長

門司日日新聞社專務理事

秋田卯一

幸谷祝重

吉田祝重

古山勝夫

粕谷益雄

增山宗成

島谷一郎

河瀬松三

牧河胤滿

理事官 補官  
滿洲國開拓總局(駐日滿洲國開拓班)

駐在大阪滿洲帝國總領事館

駐門司滿洲帝國名譽領事館

名譽領事代理

日滿鑛工技術員協會

常務理事 工學博士

九州日滿鑛工技術員養成所長

滿洲移住協會

弘報部長

門司鮮滿支案内所

所長

弘報係主任

旅客係主任

貨物係主任

長崎駐在員

六

中村善一

佐久間勝森

增田安雄

玉村忠雄

荻原一郎

隈部一雄

山田英雄

山田義鶴

奧村純松

青木源之助

溜島晃

香川幸弘

柳谷忠吉

下關駐在員  
(滿洲日日新聞社關門支局長  
鐵嘴託)

岩瀬次郎

堀田英喜

七



## 祝 辭

八

茲に本日南滿洲鐵道株式會社、華北交通株式會社共同主催の下に大陸研究會西日本大會を開催せられるに當りまして素懐の一端を披瀝する機會を與へられましたことは私の最も欣幸とするところで御座います。

大陸研究會が大陸問題研究の地方推進機關として西日本の各地に産聲を擧げたのはつい昨秋來のことではありますが、それにも拘らず既に幾多の顯著なる成果を擧げてゐられますことは、各位の世局に對する關心が如何に熾烈であるかを立證するものでありまして、興亞の大業の一翼に身を挺する私としまして、衷心より喜ばしく存すると同時に各位に對して改めて深甚なる敬意を表する次第で御座います。

而も、今日、各地に於ける研究の成果をもたらしめて茲に西日本大會を開催せられ、各研究會相互の連繫を強化するとともに各研究會が統一ある活動を展開せんとせらるゝことは、大陸研究會本來の企圖をより一層效果的ならしむるものであり、大東亞共榮圈確立の鴻業に寄與貢獻せらるゝこと蓋し鮮からざるものと確く信じて疑ひませぬ。

改めて申すまでもなく、皇國は今や史上未だ曾てなき難局に遭遇してゐるのであります。然しながら、皇國民は眞に一億一心、如何なる艱難をももともせず、また如何なる障礙をも敢然突破してともに肇國の大精神皇國の國是に殉げんとしてゐるのであります。即ち大東亞共榮圈を確立して、久しく擗取劫略の桎梏に呻吟した吾が十億の大東亞諸民族を解放し之をして自榮自存、大東亞新文化の興隆に協力せしめ、進んで世界新秩序を確立し遍く全人類をして各々其の堵に安んぜしめ各々の天稟を發揚せしめ、以て全人類の和平と向上とに奉仕せしめようとの大理想を具現せんがために直往邁進してゐるのであります。従つてかゝる場合、之等の問題に關する諸般の認識を深めることはまさに焦頭爛額の急に迫るものといはなくてはなりません。

大陸研究會員各位は西日本各地に於ていづれも指導階層を成す重要な地位を占めてゐられるのであります。斯る方々が自ら進んで大陸關係の調査研究に當られるに至りましたことは國民總力の發揚を最も切實に要望せられる今日如何に意義深いものであるかは言ふを俟たないことで御座います。

冀くば本日の大會を一轉機として、更に一層所期の目的完遂に一段の努力を重ねられんことを切望して茲に私の祝辭といたします。

昭和十六年十月二十五日

大政翼賛會東亞局長 永井柳太郎

## 決議

一〇

支那事變ヲ完遂シ大東亞共榮圈ヲ確立スルハ吾國不動ノ國策ナリ、而シテコノ國策ヲ現實ニ具現セシムルニハ一億ノ國民ヲ深キ認識ニ基ツキ確乎タル信念ト勇猛ナル氣魄トノ下ニ動員スルニアリ

西日本各地大陸研究團體ハ即チ茲ニ寄與スル爲メ設立サレタルモノナルカ事變ノ推移内外ノ動向ハ愈此ノ點ニ眞摯敢闘スルコトノ極メテ必要ナルヲ痛感セシムルモノアリ、各地大陸研究團體ハ愈其ノ組織ヲ整備シ益活動ヲ活潑ナラシムルハ勿論各團體相互ノ連絡ヲ緊密ニシ以ツテ其ノ活動ヲ一層效果アラシメンコトヲ期ス

右 決 議 ス

昭和十六年十月二十五日

## 大陸研究會西日本大會

## 座談會速記

溜 島晃 (旅客係主任) 大變御待たせ致しました。只今から大陸研究會西日本大會を開催致します。先づ國民儀禮を致します。

(一同起立最敬禮並に默禱) 何うぞ御着席願ひます、只今から主催者並に後援者側からそれ〴〵御挨拶がございませう。では、滿鐵東京支社長古山勝夫殿

古山勝夫 (滿鐵東京支社長) 開會に當りまして一言御挨拶申し上げます。豫ねて御集りの皆さん方の御盡力に依りまして大陸研究會が各地に結成され、着々その成果を挙げつゝあるやに承はりました。甚だ御同慶に存する次第であります。今日は各地に於きまして専ら大陸を中心とする各種の御研究をなされ、日本の大陸政策の一翼と致しまして各方面の仕事に御盡力のこと、思ひまするが、恰度各地に研究會が出来まして約一ケ年を経過して、今日に到つたのであります。本大會に於きましては主としてこの西日本關係の各地研究會の横の連絡と申しませうか、各地の状況を皆さん方に御話願ひましてお互にその長を採り短を補ふと云ふことに依つて、益々この研究會の成果を擧げて行くやうにしたいと云ふやうな意味も盛られて居るやうに承はつて居ります。私は常に東京に居りますので比較的方々に出る機會も少く、従つて今日御集りの方々も殆んど初めて御目にかゝる方が多いのであります。何うぞ今後とも宜しく御見識り置き願ひたいと思ひます。

皆さん方の前に大陸のこと、或は滿洲のことにつきまして忌憚なく申上げること必要であるかと存じまするが故に、この機會に暫らく時間を拜借致しまして、滿洲乃至大陸のことに關しまして私が一、二感じて居りますことを申し上げます。

一一

して、御挨拶に代へたいと思ふのでございます。

豫定にもありますやうに、後ほど滿洲事情につきましては大使館の方から詳しく御話のあること、存じますから、さう云ふ點は略しますが、一体日本が滿洲を開發し、或は物資の交易をなし、今日着々とその實績を挙げつゝあるのがありますが、世界の情勢は日に／＼吾々の豫期しないやうな速度と變化を以つて伸びつゝあるのであります。この間に處しまして日本の大陸に對する色々の問題と云ふものも、益々複雑多岐になつて來るのであります。申すまでもなく十年前に滿洲建國と云ふ大きな事實がございまして、それ以來日本は滿洲國と全く一體不可分の關係に起ち、精神的にも或は政治的にも、或は經濟的にも一體不可分の關係に起ちまして着々と進んで來てゐるのであります。世間一般の人々が能く申しまする、所謂日本の東亞新秩序建設と云ひますか、さう云うものについては既に皆さん御承知の通りであります。すが、滿洲との關係と云ふものは今後益々密接化し益々深くして行かなければならぬと思ふのであります。

就きましては日本人の最後の一人に至るまで滿洲を能く認識し滿洲と共に起つと云ふ、深い覺悟と認識を持つて進むことが必要であると思ふのであります。何と申しましたも、日本に居りますと大陸のことが却々能く判らない、昔から能く申します『百聞は一見に如かず』一人でも多くの人が大陸に行かれて、大陸を認識すると云ふことが必要であるのであります。總ての人がさう云ふ機會を得られないのであります。

就きましては、恰度各地に結成されて居りますやうな大陸研究会なども皆さんの御努力に依りまして、各地方々々の一般民衆に大陸に對する認識を深く持たせるやうに進んで戴きたいと思ふのであります。この滿洲の實情についても極く卑近の例を取つて申しますれば、この十年間に於て非常なる發展をしつゝあることは、御承知の通りであります。例へば鐵道について考へて見ましても、十年前滿洲事變當時に於きましては滿洲には、滿鐵線のほかロシアの經營して居りました東支鐵道、その他イギリスの關係して居りました鐵道と云ふものを加へ、更に支那側でやつてゐる鐵道と云

ふものを加へまして約五千キロ位の鐵道があつたのであります。この十年間に恰度それと同じ位のもの、それより少し多い位の鐵道が新しく建設されて既に現在に於きましては、一萬一千キロの鐵道がこゝに經營されてゐると云ふやうな状態に躍進的發展をしてゐるのであります。

鐵道の例を取りますれば、當時滿鐵は僅か滿鐵本線一千百キロ内外の鐵道を經營して居つたのであります。その後、滿洲國の建設しつゝある諸鐵道の委任經營を受けまして、全部の鐵道を一貫的に經營してゐるのであります。この鐵道は當時から約十倍の延長キロを經營してゐると云ふ實情であります。自動車についても、滿洲事變の前に於ては全く自動車運營と云ふものはなかつたと云つてよい程度であつたのであります。

滿洲國建國後、滿洲國政府の道路に對する非常なる努力に依りまして現在の道路網は、既に四萬キロを突破してゐるのであります。自動車運營して居ります區間でも、既に二萬キロと云ふやうな發展を致してゐるのであります。その他重工業は勿論、色々の方面に於きまして、吾々が想像だに及ばなかつた發展をして來てゐるのであります。これ一に日本の官民一體の御努力の結果であると云つても、誤りなからうと思ふのであります。

今後滿洲國と日本との關係は益々一體不可分であることを深く認識し、東亞共榮圈の基礎となるやうな、確りした結びつけを持つて行かなければならぬと思ふのであります。今後に於きましては滿洲に對する問題は、益々その重要性を加へて來ると私は信じてゐるのであります。何うか各地研究会の方々に置かれまして、今後機會ある毎にあらにお出でになられまして大陸認識を深め、日本の使命を御弘め戴きたいと思ふのであります。

溜 本日は各地からお忙しい處を御集り下さいまして、又來賓の方々にも遠路本會のため御參列下さいまして篤く御禮申上げる次第であります。甚だ雜把なことを申しましたが、これを以て私の御挨拶を終ります。(拍手)

溜 次に華北交通東京支社長島一郎殿

島 一郎 (華北交通株式會社東京支社長) 私も主催者の一人と致しまして本日大陸研究會西日本大會が開催されました、茲に臨席する光榮を得たことを深く慶ぶと共に、皆様の御熱心なる御参劃に對しまして敬意を表する次第であります。

只今滿鐵東京支社長の御挨拶にもありましたやうに、詳しいことは申しませんが、只この機會に、大陸研究會と云ふものは刻下の日本にとつて、非常に質的に益々重要性を加へて來てゐると云ふことであります。これは只今古山支社長の御話にありましたやうに、大陸と云ふものを據點とせずしては日本の世界政策即ち東亞共榮圈確立はあり得ず、況んや日本の八紘一字の顯現は到底出來ないのであると云ふことを同様にも繰り返して強調したいと思ふのであります。日本人を批評することは何うかと思ひますが、動もすれば日本人の中には、新しいものには直ぐ飛びつくと思ふやうな傾向がありはしないかと考へるのであります。日本の南方進出は固より結構ではあります。今日南方進出と云ふ所謂東亞共榮圈の確立と云ふやうなものも、結局日本の大陸政策を度外視しては絶対に成り立たないものであると云ふことを常に私は主張してゐるのであります。甚だ例にとつておこがましい話であります。往年吾々が滿洲に居りました時に、國際聯盟の結成と同時に世界思潮もデモクラシーに轉向したのであります。従つて日本朝野に及ぼした思想的の影響と云ふものは非常なものであります。その後、御承知の如く滿洲事變と云ふものが勃發すると共に滿洲國の建國となり、次いで北支事變から全面的支那事變への展開となつて今日に至つてゐるのであります。こう云ふ意味に於きまして今日日本の内外に能く申して居ります所の南方進出と云ひ、大陸進出と云ふものは決して消滅しないものであると云ふことを特に強調したい次第であります。

その點に就きましては勿論、皆様充分なる御認識を持つて、こふ云ふ大陸研究會と云ふものに参劃され研究されてゐることは萬般承知であります。従つて大陸に對する研究價値と云ふものは益々深味を持つて研究されなければなりません。認識の程度をより深くして行かなければならぬと云ふ意味に於きまして、私共はこの大陸研究會と云ふものゝ今後に多大の決意と熱意を持つて見てゐる次第であります。

吾々は及ばずながら大陸に生きて今日に至つてゐる以上、この大陸研究會今後の發展に就きましては、全力を盡し一臂の力をこれに加へることが出來れば望外の幸と存する次第であります。

どうかこの大陸研究會の今後の發展をお祈りして本日この大會をして有意義に終らしめられんことを希望して止まない次第であります。簡單であります。御挨拶に代へて一言所感を申述べます。(拍手)

溜 駐日滿洲國大使館理事官中村善一殿

中村善一 (駐日滿洲國大使館理事官) 今回滿鐵東京支社長並に華北交通東京支社長の御主催に依りまして、西日本大陸研究會の方々の御集りを願つて御懇談しようと思つてお聴きしましたので、大使館としても是非とも御後援申上げたいと思ふ意味で、又各地の大陸研究會の今後の發展についても、出來るだけの御援助を申上げると云ふつもりで本日参つた次第であります。

滿洲の建設のためには民間の有識者が強力に動かなければならぬのでありまして、各地の斯うした御催し、或は斯うした民間の團體が設立されましたことは日本のために、又東亞のために洵に慶賀に堪えない所であります。

先日或る所で面白いお話がございましたのでありますが、却々民衆と云ふものは先に立つて引張つて行くのは却々難しいと云ふやうな話がありました。支那には善政と云ふ言葉がありますが、この善と云ふのは抑々羊が草を口にぐわえてゐることを意味する字で、即ち羊飼ひが草を喰はす、これが善と云ふ字になるのであります。羊に草を喰はせるのが牧童の役割だがさて牧童は何うして羊に草を喰はせるのであるか、羊と云ふものは非常に潔癖な動物であつて他の動物の踏んだ草は喰はないさうであります。羊の先に立つて羊を引張つて行つて草を喰へと云つても却々喰はないさうでありま

す。

斯う云ふ非常に潔癖な性能で非常に臆病な羊に草を喰はすのが牧童であります。牧童は常に羊の後方から草のある所へ静かに追ひやつて行く、これが牧童達の役割であります。この點最も研究を要する所でありませう。日本の支那大陸に於ける指導の方法と云ふものは、これと逆の行き方だと云ふ話が出て私共一同非常に考へさせられたのであります。陣頭指揮と云ふことは陣頭に起つて指揮すると云ふことであります。非常な動亂の場合に於きましては、或は民衆の集團的行動の場合等に於きましては氣の立つた人達を導くために自ら陣頭に起つて引張つて行く時期もあるのであります。又さうでなく、そうつと方向を與へながら静かに導くと云ふやり方の必要な時期も考へられるのであります。所謂指導的ポストにあるものが無理に「この方向に向け」と云ふ場合には却つてそつちに向かない、羊に草を喰へと云つて引張つて行つても喰はないと云ふ現象も起り易いのであります。寧ろ音もなくスツと引込んで行くと云ふ手段も大變必要であります。

日本の大陸發展といふことに就きましても官廳の御役人達の陣頭指揮だけでは充分でない、各地の民間有志の、かうした團體の方々からの働きかけに依りまして、當該の地方々々の人々に不知不識のうちに大陸を認識せしめ、大陸發展、大陸建設の熱意を昂揚するといふことが最も肝要なことであらうと思ふのであります。

又その半面に於きましては、各研究会に於いて熱心に研究され批判された結果と云ふものが、大陸の色々な行き方、或は政策、その他萬般に何時の間にか滲透すると云ふ風なことも亦非常に大事なことであらうと存じます。さうした意味合に於きまして各地の有識の方が御集りになりました大陸の色々な部門を取り上げて研究しながら、然もその成果と云ふものを常にその土地／＼の方にお傳へになり、又内地の事情を大陸の方々にお聞かせ下さると云ふことは私ども最も欣幸とする所でございます。

大使館に於きましても或は研究の資料の送附其他について出来る限りの御後援を申し上げたいと思つて居る次第であります。

尙明年は建國十周年を記念し色々催しものが各地に催され、又大使館の方からお願ひすることもありませうし或は主催して載くことも多々ございませうと思ひますが、その節は又どうぞ何分のお力添へを願ひたいと思ふ次第であります以上お願ひを兼ねて御挨拶を申し上げた次第で御座います。(拍手)

溜 日滿鑛工技術員協會常務理事隈部一雄殿

隈部一雄 (日滿鑛工技術員協會常務理事) 私は只今御紹介に預りました日滿鑛工技術員協會常務理事隈部であります、お見識り置き願ひたいと思ひます。

本日この御催しのあることを伺ひまして、私の方の協會が従来も皆様に色々御厄介になつてゐることだらうと思ひますし、將來も従来より一層密接に御連絡載きまして御面倒をお願い致したいと思ひますので、大使館からのお話によりまして後援者の一人に加へて戴いたわけであります。日滿鑛工技術員協會と云ふ名前は皆様に未だ十分御親しみないことと思ひますから、さつとこの協會の性格、事業等を御紹介申し上げたいと思ひます。

昨年滿洲國に於きましては滿洲鑛工技術員協會法と云ふ特別法が出来まして、それに據つて滿洲鑛工技術員協會が設立されたのであります。理事長は東京工業大學名譽教授の關口八重吉と云ふ方であります。理事長は日滿鑛工技術員協會と只今申上げた滿洲鑛工技術員協會と兩方の理事長を兼ねて居られるのであります。理事長は主として滿洲に居られまして活動されて居るのであります。その滿洲鑛工技術員協會と事實上一體的活動をなすために、日本には日本法人として日滿鑛工技術員協會なるものがあります。

私は日本側のお世話を主としてやつてゐるのであります。事業と致しましては技術者の養成、特に下級技術員の幹部と

なる、軍隊で申します下士級の技術者を養成することの事業は満洲國、日本國兩方を通じて最も主要な仕事であります。尤も満洲鑛工技術員協會側に於きましては滿人の養成指導と云ふことが主なる仕事でありまして、日本に於きましては日系の青少年の養成指導と云ふことが主なる仕事の一つになつて居ります。

又日本に於きましては非常に多數の青少年を満洲國の鑛工業に送り込まなければならぬのであります。一面この募集渡滿前の訓練と云ふことも亦協會の非常に重要な仕事としてやつて居ります。皆様にはこの青少年の募集と云ふことにつきまして、又満洲國鑛工業の實體を日本國に紹介すると云ふ仕事に對しまして將來一層御世話にならなければならぬかと思ひます。この席上から宜敷く願ひして置きます。どうぞ日滿鑛工技術員協會と云ふ名前をこの機會にお識り置き願ひたいと思ふのであります。

私は實は今日滿洲から歸ります途中であります。極く短時日でありましたが最近の滿洲の事情を多少見て参りました。哈爾濱に参りました。哈爾濱の開拓義勇隊關係の訓練所を拜見して参りましたが、私の方の鑛工業の仕事と農業の方の仕事とは仕事の性質は違ひますが、滿洲建國のため日本の有爲の青少年を送り込むと云ふことは全く同じ性格を持ち又同じ技術員を送ると云ふ意味で吾々は開拓關係の訓練所を拜見すると云ふことは非常に興味もあり又私としても非常に熱心に拜見したのであります。所が拜見して見ますと色々義勇隊については面白くないと云ふ風評も多少あつたのであります。但し、哈爾濱訓練所を拜見して非常に感心をし又吾々として鑛工業關係のものについても反省しなければならぬ點を拜見した次第であります。細い事を申上げる時間はありませんから結論的に申しますと、青少年の開拓義勇隊と云ふものは必ずしも所謂勤勞奉仕的な作業ばかりでなく、非常に文化的に若い人達を向上させるための努力を注いでゐるのであります。

又科學的に滿洲に農業方面の開拓をさせるため色々な教育なり、施設をしてゐると云ふことを拜見して來たのであります。

す。哈爾濱の訓練所は指導者つまり訓練所のリーダーを造る、さう云ふものでありまして、其處を拜見しますと建物は非常に粗末であります。その中に物理教室もあり化學教室もあり圖書室も相當立派なものがあつて、勉強するのに不自由しないと云ふ、かふ云ふ立派なものが曠野の眞中にあると云ふことを拜見しまして是れあるかなと云ふ感じがしたのであります。私ども方の鑛工業關係事業は開拓義勇隊に比べますと歴史が未だ淺いのであります。滿洲國の鑛工業を建設すると云ふことを先程來古山、島、中村三氏に依つて色々お話がありました如く、東亞新秩序建設の根幹として滿洲國の建設と云ふことが絶對的に必要であると云ふことは申すまでもないのであります。なほこの關係は十分に日本の朝野に認識されてゐるとは言ひ難いと思ふのであります。

滿洲國の國防力増強のためには日本からどしどし人員なり物資を輸送する必要がありますが、何分海を隔てゝ居ると云ふことは大いに考へなければならぬことと思ふのであります。御承知の通り最近浦塩方面から機雷が流れて來る、このため或る航路は現在非常に警戒されて居ります。従つて物資の海上輸送は非常に困難であらうと考へられるのであります。交通輸送力の不足とか工業力の不足と云ふこと、これは吾々が敢て申さなくても皆様十分御承知のやうに、決してさう云ふ心配はないと思ふのであります。併し、兎に角、現地に於て相當の國防力を發揮するために今後滿洲に國防工業に相當なものを造らなければならぬと云ふことは、常識的に考へられ首肯出來るのであります。

滿洲國國防工業と云ふものは目下着々建設中でありまして、その中心になるものは資材でもなく、資本でもなく、無論これは人的の要素、これが中核となるのであります。從來鑛工業と申しますと恰も利潤追及の對象のやうに考へられたのであります。新體制下に於きましてはその性格は全く一變しまして、これを構成する人間も從來のやうにのんびりした考へは勿論いけません。本邦からは非常に有力な方々が澤山滿洲に行かれました。滿洲國の鑛工業建設のために力を注いで居られるのであります。私は何と申しましても滿洲國鑛工業の建設はこれからであり、その中核をなすものは

矢張り新しい日本の建國の理想に燃えた青少年でなければならぬと斯ふ考へるのであります。さう云ふ意味合に於きまして、心身ともに健全であつてそして滿洲國の鑛工業の建設と言ふことを一生の念願として、然も科學技術と言ふものに天稟のある青少年を多數滿洲第一線に送り込む仕事を現在やつてゐるのであります、さういふ關係で私の方の協會も青少年の募集と言ふことを日滿を通じて國家の運命を招來すると言ふことに對しまして、開拓義勇隊と同じやうに大事な仕事であると日夜考へて仕事をして居ります、どうぞ皆様も御同感であると思ひますが、さういふ意味に於きまして良い子供を澤山滿洲に送られるやうに御協力願ひたいと思ふのであります。

滿洲鑛工業の一部に對し内地に悲觀説が傳はつて居ります、即ち一向豫定通り進行しないじやないかと言ふ議論が傳はつて居ります。當初の産業開發五ヶ年計畫に比べまして、現在の滿洲國鑛工業の實體が多少變つて性格を變へる、又最初の五ヶ年計畫に比べますと豫定通り行つてゐると言ふものもありますが、順調に行つてゐないと言ふことも事實であります。これは國際情勢の變轉、日本國內情勢の變化などに當面しまして已むを得ない事情もありません。

又性格が變つたと言ふことは變へなければならぬ必然性があつて變つて來たのであります。これを以て決して失敗と言ふことは出来ないであります。御承知の通り鴨綠江の水豊ダムで水豊發電は開始され松花江、鏡泊湖附近のものも發電を開始するさうであります。色々細いことは申されませんが、滿洲國の鑛工業の建設と言ふことにつきましては決して巷間傳へられるやうに非常に遅々として進行しないと云ふことにはないであります。これはのち程中村理事官から詳細にお話があると思ひますから私は細いことを申上げるのを見合せます。

只、私が今回参りました非常に朗らかな話を聞いて來たのであります。それは滿鐵の或る重要事業がいよ／＼確實に成功を致しまして完全に運轉をはじめると云ふのであります。この事業の成功に對しましては御同慶に堪えない次第であります。以上申述べましたやうなわけで、將來とも宜敷く御協力を願ひたいと思ひます。(拍手)

#### 溜 移住協會弘報部長山名義鶴殿

山名義鶴 (滿洲移住協會弘報部長)

今日は西日本に於ける各地方の指導的立場に居られる皆さんと御懇談する機會を得まして大変喜んでゐる次第であります。後程色々御懇談の場合に申上げる機會もあらうかと存じますので、一言吾々がどういふ氣持でこの會合に臨んで参つたかと云ふことを一言申上げて御挨拶に代へたいと思ひます。

多年私どもは滿洲開拓の仕事に御奉公致して居りますが、熟々感じますことは、滿洲開拓の仕事は勿論國策として、日滿兩國政府の國策として取上げてゐるところであります。一體今日國策と呼ばれてゐる政策は非常に澤山あります。けれども、それらが総合的に一本の大國策に織込まれて居らぬのであります。政府は各省で取扱ふ國策と呼ばれる所の政策を進めてゐるのであります。それがお互に各省本位となり、國全體の仕事として圓滑に進行すると云ふことはなか／＼困難な事情にあるのであります。例へば滿洲へ開拓民を送り滿洲の建國に協力する、これは大きな國策であります。農村から壯年者なり少年なりを送ると云ふ場合に、鑛工業へ動員される者との間に勞力の配分と云ふ點に付絶えず問題が起つて居ります。この勞力配分については、一應企畫院その他に於て國の企畫と致しまして毎年幾何の農民を滿洲にやると云ふことを決めるのであります。實際にこれを實施致しまする場合に於きましては絶えず其處に敏活に進行せざるものがあります。これは今吾々の關係してゐる滿洲開拓の仕事に直接關係したことを申したのであります。拾ひ上げて見るなれば多くの場合にその例が澤山あります。

國策と稱すと雖も國策と云ふよりも各省の省策があると云ふ状態であります。國全體の綜合した國策と云ふものはないと、斯う申しましても實情とは餘り遠くはないと思はれる。これは是正しなければならぬ、そのためには政府の機構も改革しなければならぬのであらうが、まづ以つて各省の間の連絡も從來の官僚的割據主義を清算しなければならぬのであります。しかし、それと表裏一體となりまして私はこの際國民の指導的な地位にある人々がこれらの總ての國策を綜

合し、そして、如何にこれを實際に實踐して行くかに思ひを致し、努力すべきであると思ひます。

總ての國策は要するに上からの力と、下から盛り上る翼賛する力を國民運動的に展開しなければ行はれないのであります。この下からの力を指導する指導的立場に居られる人々が、總ての國策に對して確かりした認識を持ち、これを綜合して國民を指導して行くと思ふのであります。

吾々はさう云ふ考へから致しまして、今までもすれば滿洲の開拓事業と云ふと一部農業指導者の専門の如く狭く見られて来た嫌ひがありますが、今後はさう云ふふうではいけない、各方面の指導的な方々が總てこの問題を取り上げて研究して戴きたいのであります。

先程隈部さんのお話にもありましたやうに、滿洲の開発上鑛工業の技術員の問題も非常に大切な問題でありまして、日本内地と滿洲とをにらみ合はせ、また工業と農業との問題をにらみ合はせ總てが綜合せられまして、適當に處置しなければならぬと考へるのであります。現在吾々は滿洲移住協會と云ふ小屋の中に居りますが、昨晚汽車の中で豫ねて懇意にして居ります新民會の訓練所に居ります友人と同車致しまして色々時局について私見を聞はしたのであります。吾々ももう大陸の開拓協會と云ふふうの發展的に改組して行かなければならぬのではないかと云ふことを考へるのであります。これを要しますに、滿洲開拓の仕事が從來は農業關係の指導者が専らこれに當つてゐたかの如き曲解を一般に與へたかも知れぬのであります。それは吾々の遣り方が悪かつた點もあつたのでありませうが、これは一般の問題として取上げて貰ひたい、又大陸の問題として更に所謂東亞共榮團の建設、國土計畫と云ふ雄大な觀點からして取上げられなければならぬと思つて居るのであります。

さう云ふことを考へてゐると云ふことを一言申上げて御挨拶に代へたいと思ひます。なほ後刻御懇談の機會に色々申上げたいと思ひます。(拍手)

#### 溜 來賓贊詞大政翼賛會東亞局長永井柳太郎閣下代理中保副部長殿

中保興作 (東亞局連絡部副部長) 先程來のお話を私も承つたのであります。滿洲事變直後有志の方が最初の移民計畫

を樹てまして渡滿致しました。私もそれに同行して多少その計畫に參畫して居つたのであります。爾來大陸の問題に一層興味を持つて來るやうになりました。従つて斯う云ふ機會に參りまして皆様とお目にかゝりますことを有難く思ふのであります。

先程來色々とお話もありましたやうですが、今日、對米問題にせよ對蘇問題にせよ、對南洋關係にせよ、また國內の如何なる問題にせよ、總て究極する所は大東亞共榮團の確立と云ふ最高目標に歸結せられてゐるわけであり。今日の新聞を見ますと野村さんのお歸りになるかも知れぬと云ふ記事が出て居ります。野村さんもすいぶんお骨折りのことと思ひます。近衛メツセージはどう云う内容のものか、日米會談と云ふものゝ内容は果して如何なるものであるかは世間に公にされて居りませんが、先日ハル國務長官が各國の新聞記者團に語つたと傳へられる所によりますと「日米交渉が如何なる段階に達してゐようとも一九三七年の宣言からは一步も譲らぬ」と云ふことを云つて居ります。それは不戰條約・九ヶ國條約などを飽くまで固守すると云ふ建前をとつてゆくと云ふことであります。九ヶ國條約はあとで申上げるやうに既に解消して居り、今更これを取上げて問題にすると云ふのは頗る理由のないことでもあります。

然るに米國側が飽くまでこの存在を主張するとなれば到底この會談と云ふものは進行し得ないと私は思つて居ります。要するに問題は矢張り東亞共榮團確立にかゝつて居るのであります。東亞共榮團確立と云ふことに關しましては一步も譲ることなく、如何なる場合でも斷乎として邁進しなければならぬところの不動の國是であると云ふことは殊更申上げるまでもないのであります。然るにその東亞共榮團に對する一般の認識が果して充分であるか否かについて私共は多少の疑問を抱かざるを得ないのであります。



今日は御承知の通り總力戰の重要性が叫ばれて居ります。總力戰といへば武力戰・經濟戰・外交戰・思想戰等を綜合した謂ひであります。特に思想戰を我々銃後の者としては重要視する次第であります。その思想戰遂行の上にはどうしても民族性の研究と云ふことが根本的に必要であらうかと存じます。

殊に人心把握策と云ふことが非常に大切であると考えます。この點吾々の最も大きな役割ではないかと考へて居ります。さう云ふ點から見て、今日大陸研究會が各地に結成されましたことは最も喜ばしい次第であります。今日皆様からこの計畫の内容、其の後の御活動情況を承はり洵に結構に存じます。從來大陸研究會と云へば主として東京を中心に行はれたのであります。國家總力戰の遂行とか、大東亞共榮圈確立と云ふ日本國民全體の總力を結集して行はなければならぬ大事業に對して單に東京の一部分でその研究が行はれると云ふのは甚だ怪しからぬ状態だつたと思ひます。

今日西日本各地の大陸研究會の會合が開かれたことは洵に慶びに堪えない次第であります。實は永井東亞局長がこの計畫を承はりまして非常に贊嘆せられたのであります。先月來の約束があつてどうしても本日の會合に出席できませんために大變残念であるが特に私に列席して申上げて呉れと云ふことで私は傳言を託されて來た次第であります。こゝで朗讀させて頂きます。

「茲に本日南滿洲鐵道株式會社・華北交通株式會社共同主催の下に大陸研究會西日本大會が開催せられるに當りまして所懐の一端を披瀝する機會を得ましたことは私の最も欣幸とする所でございます。

大陸研究會が大陸問題研究の地方推進機關として西日本の各地に産聲を挙げましたのは最近のことではありますが、それにも拘はらず既に幾多の顯著なる成果を挙げられたことは各位の大陸に對する御關心が如何に熾烈であるかを立證するものであります。私としても衷心から喜ばしく存する次第であります。

本日各地に於ける研究會がその後の其の成果を齎らし茲に西日本大會を開催し各研究會最高峰の聯繫に成功すると同

時に各研究會に統一ある活動を展開せんとせられることは大陸研究會本來の企圖をより一層効果的ならしむるものであり、大東亞共榮圈確立の國策に寄與貢獻することは蓋し尠からざるものと固く信じて疑ひません。

改めて申すまでもなく、皇國は史上未だ嘗つてなき難局に遭遇してゐるのでございます。併し國民の信念は一億一心、如何なる困難をも物ともせずこれを突破し、共に肇國の大精神に則り東亞共榮圈を確立し、久しく搾取に呻吟した十億の東亞諸民族を解放し、大東亞新文化の興隆に協力せしめ、進んで世界新秩序を確立し、冷く全人類をしてその塔に安んぜしめ以て全人類の平和と幸福とを増進せしめやうとの大理想を具現せんがため直往邁進してゐるのであります。大陸研究會々員各位は西日本各地に於ていづれも樞要の地位を占めて居られるのであります。冀くば國民總力の發揚によりてよく所期の目的完遂に一段の御努力をお願いする次第であります。

茲に私の感懷を述べ祝詞とする次第であります。昭和十六年十月二十五日 大政翼賛會東亞局長 永井柳太郎

(拍手)

溜 講演「滿洲事情」駐日滿洲帝國大使館理事官中村善一殿

中村善一 (駐日滿洲帝國大使館理事官) (要旨) 田邊前内相が内務大臣就任に當りて聲明せるところも治安維持第一方針であつたことを例證し、滿洲國に於ても最大問題は即ち治安維持の問題であると爲し、建國以來の治安状態を説明し、武装匪團の掃蕩は既に殆んど完成の域に達しあるも、今後の重要問題は國防國家完成に對する思想並に經濟産業部門に於ける防害の排除にあることを力説、忠君愛國を基本とする日本文化の大陸移植を急速に實施し逞ましき滿洲國の完成に協力あらんことを要請した。

溜 「北支蒙疆事情」東京支社長島一郎殿

島 一郎 (華北交通東京支社長) 本日お集りの皆様方はいづれも社會的に指導的立場に居られる方々でありまして、

且つ又それ／＼大陸研究会を結成されました御熱心に御研究になつて居られる方ばかりでありまして、北支・蒙疆の特殊事情につきまして私が今更々の籍を弄する必要はないと存じます。偶々華北交通會社と云ふものに籍を置きます關係上、極く概略的に講演と云ふ形でなくお話申上げ、皆様の御参考に役立ちますれば幸甚と存する次第であります。華北或は蒙疆と云ふ所謂特殊地域に於きまして鐵道がどう云ふ意義を持つてゐるかと云ふことは申すまでもないことでありませう。我が國が華北に對しまして開發權を持つやうになりましたのは日清戰爭後、天津租界を設定したことによつて創つて居るのであります。

この華北・蒙疆の絶對的特殊地域にまで認識させ且つ又主張するやうになつたのは、滿洲國の建國に依つて日滿不可分一體と云ふ關係が生れましてからであります。滿洲と云ひ北支と云ひ、いづれも地理的、歴史的にこれを考察しますれば、その特殊性は直に判然たるものであると思ふのであります。我が國は東から南西にかけて帯の如く長く連なつて居ります。これを我が國の状態と滿洲とを比較して調べて見ますと所謂全く唇齒輔車の如き關係にあります。

而して一方歴史的には、現在の日滿關係は恰度脇腹に匕首を差向けたと同じく、東亞共榮圈確立は愚か我が國存立にも非常な影響があるのであります。そのことは彼の喧しい佛印問題とか、蘭印問題とは本質的に趣を異にしてゐるのだと存する次第であります。

この滿洲國や北支の特殊性を地理的、歴史的に考へて見ます時に、思ひ浮ぶことは彼の露西亞の南下政策であります。露西亞の南下政策を防ぐために我が國が起つて、あの日露戰役を開いたのであります。更にこの日露戰役後我が國が困苦經營十有餘年の長い開苦勞して漸く滿洲國を建設し今日に至つて來てゐるのであります。この露西亞の南下政策と云ふものは露西亞の帝政が亡びまして又現在の赤化ソヴェートの露西亞となつても依然として持つてゐる、これは露西亞の傳統的否寧ろ宿命的な政策でございます。なほ英國及び米國の對支政策も中支、南支を主として動いて來て居つたの

であります。殊に北支や滿洲にも手が伸びて來てゐたのであります。兎に角滿洲から北支にかけて國際鬭争が行はれてゐるのであります。これは支那に自己保全の能力がない爲長い間繰り返し／＼變遷を経て來たのであります。

滿洲事變を経て今日の支那事變となり次いで歐洲大戰の勃發に依りまして、尠くとも今日に於ては英米の兩勢力は北支及び滿蒙から手を引くの已むなき事情になつて居るのでございます。又その敵性支那に於きましても、支那事變によりまして北支、蒙疆にあつた軍隊は殆んど潰滅してしまつてゐるのであります。獨り露西亞の南下政策——この宿命的な南下政策は依然として強く動いて來てゐる。これはつまり皆様の御承知の通り共產軍の熱狂的な抵抗が未だに現地に行はれてゐると云ふことなのでございます。つまり、露西亞の南下政策と云ふものは、今や形を變へて北支を脅かして居ります。この露西亞の赤化政策と云ふものは假りに今、日支が平和親善の關係にあつて全面的平和が招來して來ても、依然としてこの露西亞の南下政策、又典型の赤化政策と云ふものは續けられると思ふのであります。

斯う考へて來ますと、北支に於ける敵性の英米、その他敵性政策の侵入を防止すると云ふはか現在蠢動しつゝある共產勢力を驅逐すること、即ち防共の徹底を計るため北支の持つ特殊性は洵に重大なる意義があるのであります。

而してこの點に於きましては昨年末締結されました日華基本條約第三條「兩國政府ハ兩國ノ安寧及福祉ヲ危殆ナラシム一切ノ共產主義的破壊工作ニ對シ共同シテ防衛ニ當ルコトヲ約ス」の主旨に依つて防衛に當つてゐる次第であります。現在の北支・蒙疆に於ける共產軍は所謂西北共產軍でありまして、その本據である陝西は主として北支・蒙疆に近接してゐるために北支・蒙疆の各地に全面的遁入散在して非常なる抵抗を續けてゐるのであります。

その戦法は皆様御承知のやうに、彼等が最も得意とする所の遊撃戰、ゲリラ戰の展開に非常なる努力を傾注してゐるのであります。そしてその目標は必ずその地方の農民に向けてゐるのであります。御承知の如く華北、蒙疆内地に於ける人口は約九千萬と稱せられてゐるのであります。その八割は農民であると見られてゐる關係上、農民を獲得すること

が即ち華北民衆の獲得となり、民心を收攬すると云ふ關係になつてゐるのであります。然も華北に於ける農業經濟は極度の封建的なものでありまして、従つて生産力は極めて低いのであります。それに加へて地理的條件が非常に悪いのでございます。人口の割合に對する耕地の不足や天變地異、その他災厄などの悪條件のために飢饉線上を彷徨する貧農が多いのであります。これは共產黨に好都合で、且つ宣傳には全く恰好の條件を備へてゐるのであります。こゝに華北が共產區勢力に傾き易い要素があるのであります。これは昔日の滿洲國建國當時の滿洲の治安状態とは可成り本質的にその差があるものであります。

然らばこの共產軍並に共產分子を華北・蒙疆地區から追ひ出しこれを拂拭し、我が農村對策上根本的建直しを遣ふことにはどうすればよいかと云ふことを考へます時に、私は、それには交通網を整備建設し各地との交通の便を計ることが先づ必要であると思ふのであります。今まで色々の自然の災厄に依りまして恐るべき慘狀が各地に繰返されて居りましたのも、それは結局多量のパンと多量の物資が急速に輸送出来なかつたところに大きな原因があつたと思ふのであります。又農村に蟻踞して蠢動する一部共產軍を退治するには迅速なる討伐が必要であり、或はその他農村が非常な飢饉線上に陥つてゐる時はこれに必要な必需品を送るとか、或は農村の生産物を自由に流通させることなどが必要でありますが、斯ういふ場合、交通機關を必要としないものはないのであります。交通網の發達によつてこの問題は或る程度根本的に解決出来るものであることを信するのであります。

これは先程中村理事官が申された滿洲國建設當時三十萬からあつた武装匪賊が一干に減つてゐる狀況によつても同じやうなことが云はれるのであります。この點昨年の議會に於きまして陸軍の田中兵務局長が議會で「軍は將來鐵道網の發達に大いに協力する」と云ふことを御公約されてゐることも併せて考へられるのであります。従つて共產軍の方から見ますと、交通不便の土地に蟻踞して、又武力戰を遣ります時にこの交通路を破壊する、そして我が方の鐵道經營を極力

阻止しようとすることは當然のことです。我が華北交通に於きましても、鐵道警備に相當多數の人員を動員し、これと戦つてゐるのであります。またこれと同時に、唇齒輔車の關係を以て愛路村工作を實施してゐるのであります。愛路と申しますのは、鐵路を愛し保護するを謂ふことであります。只今華北交通の鐵道は約六千キロであります。自動車路線約一萬四千キロ、その外運河、内國河川水路四千キロ近くあります。そして、これらの路線の兩側各十キロの間に村落を指定して愛路村地區を助成、これを組織し民衆工作を行つてゐるのであります。これはつまり鐵道沿線の年々發展してゐる村落の者が大體構成の全部を占むるものであります。その數は村落では八千箇村、約三千萬の人をその中に包含してゐるのであります。これらは一定の地域にあり、過去に於ける附屬地と云ふやうな觀念では律し得ないのであります。愛路村こそは實に我が華北建設の據點であり、新しきもの一切の培養基地であると云ふことを斷言してもよいのではないかと思ふのであります。

前に申しましたやうに、住民の八割以上は農民であります。従つて農民の動向が總ての動向なのであります。その意味から、如何にこれを收攬把握するかと云ふことは實に重大なことであります。これに對しましては或は軍鐵一致、即ち陸軍と鐵道とが一致して心血を盡つて着々効果を擧げてゐるのであります。今後とも愛路村工作には一段の力を入れたいと思つてゐるのであります。その實施狀態の詳細は今茲に申上げる時間がありませんが大體を申し上げますと、農村指導では愛路勸農場又は愛路惠民研究所や其の他の施設を持ちまして農事指導を行ひ、又優良樹木や農産種子を頒ち與へるとか、その他井戸を掘つてやるとか、食糧品が非常に不足してゐる所には安く實費で賣つてやるとか、或は診療所をどしどし農村に建設して病人を治してやるとか、さう云ふことをして農民の生活安定と云ふことを一生懸命にやつてゐるのであります。

又或は模範愛路村と云ふものを作つて盛んに模範愛路村を獎勵してゐる。又愛路青少年隊や愛路婦女隊と云ふものを組

織し、常に團體的訓練を施すと共に、具さに情報の蒐集をやるとか、鐵道路線の監視に任せしめるとか、或る時には直接身を挺して匪賊を撃退すると云ふふうにして反共防匪の完成に非常な努力を集中してゐるのであります。これ等の愛路工作によつて今日までの間に表彰を受けた件数が六百三十九件に上つてゐる次第でありまして、これは要するに農民の我が行爲に對する積極的参加と云ふことを意味するものであります。この愛路工作と云ふものは日本が取上げた最も新しい一つの方法であります。

所謂、列國の帝國主義的、侵略的形態を揚棄したこの日本の態度は政策の一つの新しい興味のあるものとして見られ、今なほ北支に於きましても非常なる役割を演じてゐるのであります。そしてさう云ふ意味に於て内地の皆様方もこの鐵道の行つてゐる愛路工作が如何に重大なものでありますかを、十分御認識願ひたいと思ひます。従つて、今次の愛路村工作に對しましては徹底的に非常な意氣込を以てやつてゐるのであります。併し乍ら、何と云つても鐵道があれば事ある場合は直ぐ逃げられるのであります。この鐵道に乗つてゐる方が最も有利な立場にあるのであります。彼等の勢力も次第に鐵道に沿つて來てゐるのであります。滿洲國が急速に治安の回復したのも鐵道のお蔭であると斷言出来るのであります。

先程申上げました北支の匪賊と云ふものは、滿洲事變を経て大分露西亞の南下政策の第二回の現はれとして相當根強いものをもつてゐるのでありますから相當の時日が掛ると思ふのであります。だが、皇軍將兵必死の努力、我が鐵道網に對する全面的協力、こう云ふことが漸次効を奏して華北・蒙疆地域に於きましても、滿洲の今日の如く續々武裝匪賊が影を潜めて行くことも遠い將來ではないと考へるのであります。従つてその後起つて來る所謂經濟戰と文化思想的な段階に入つて行くことが今日豫見されてゐる次第であります。

以上地理的、歴史的方面から見た華北・蒙疆の特殊状態を申上げましたが、次に重要なことは、この北支は豊富なる資源を持つて我が國に對してゐると共に、勿論、資源供給地として我が國高度國防體制確立の重責を荷負ふてゐるといふことでもあります。これが東亞共榮圈確立に對して如何に重大なる意義を持つてゐるか云ふことを簡単に申上げたいと思ひます。御承知のやうに、我が日本は遺憾ながら各種國防資源に恵まれてゐない國であります。然も現在、一方には抗日重慶政權と交戦しつゝ、東亞の指導者としての東亞共榮圈の確立に邁進して居りますが、他方これを阻止しようとする英米勢力、これとも拮抗してゐるのであります。従つて日本の要求する資源と云ふものは今後ますます必要となつて來てゐるのであります。御承知の通り所謂歐米は日本に對する資材の供給を拒絶してゐるのであります。或は又蘭印すらも英米に加擔して日本に對する資源の供給を拒んでゐると云ふ状態にあるのであります。この秋に於きまして日本に對して資源を割愛し得るのは結局北支に於ける各種重工業資源の他はないと思ふのであります。殊に北支重要資源たるボーキサイドの一種の鑛石をはじめ、その他各種の資源があります。これらは我が日本刻下の高度國防國家完成の重要資源であります。石炭その他の資源について簡単に申上げたいと思ひます。現在の調査では北支一帯に石炭が埋藏されて居りまして、その埋藏量は千七百億トンと稱されてゐるのであります。恰度日本の十倍、滿洲國の數倍に上つてゐるのであります。世界有数の寶庫をなしてゐるのであります。しかも、その中には製鐵原料として缺ぐべからざる所の粘結性瀝青炭が豊富であると云ふことは、今日の日本國家にとつて重要な役割を持つてゐるのであります。

次は御承知のやうに華北を中心として塩が豊富であります。御承知の通り、歐洲大戰後アメリカその他の對日輸出制限と云ふことに依りまして外塩が日本にはいらなくなつたのであります。この北支の塩と云ふ資源は、我が國にとつては非常に重要な役目を務めてゐるのであります。日本が北支の塩に依存する程度は今後ますます多くなること、信じて疑はないのであります。唯此處で多少考へたいことは、あの水氣をたつぷり含んでゐる塩をこの日本が凡ゆる方面に

その輸送力を強化しなければならぬ、今日態々その總てを日本に持つて来る必要もあるまいと云ふことが、問題なのであります。先程も滿洲國中村理事官から云はれたやうに、今後の大陸の政策は單なる武力だけではいけない、武力掃蕩の済んだ後には産業的或は思想的匪賊と云ふものと戦つて行かなければならぬ、と云ふことを云はれた、この點からして態々塩を内地に輸送することなく、或る程度大陸に塩の多角經營、加工經營と云ふことを考へなければならぬのではあるまいかと思ふのであります。況んや日本内地に於ける日本の加工業中には遊休資材が相當あります。この遊休資材を持つて行つて、北支に於ても精製すると云ふことも今後大いに考へなければならぬ問題ではないかと思ふのであります。〇〇鑛山から出るアルミニウム原料はアルミニウム合金並に輕金屬の王者として自動車、航空機並に近代戦に於ける高度の機動戰を必要とする機械化部隊に主要地位を占めてゐる、アルミニウム合金は近代作戦に缺ぐべからざる必要資材となつて來てゐるのであります。そのアルミの原料たる礬土頁岩が北支に於て豊富に發見されまして、從來アルミニウム資源に悩んでゐた我が國に大いなる貢獻をしようとして居ります。今後アルミ資源はます／＼日本にとつて豊富なる供給を提供すること、信する次第であります。北支・蒙疆の國防資源に就いて大體以上のやうなものを二、三取上げて申しましたが、之等はどし／＼日本へ送られるであらうと信するのであります。本格的開發、或はこの開發した資源を或る程度現地に於て加工せしめると云ふことは、つまり日本の高度工業と云ふ範疇に於て、北支を或る程度工業化すると云ふことが將來に残された問題であらうと思ひます。それにはどうしても資金或は資材の十分なる提供及び指導、交通網の完成、港灣設備の完備或は船舶輸送量の強大化であると考へられるのであります。我が國に於きましてはこの點につきまして重大なる考慮を拂つて行かなければならぬと思ふのであります。今までの日本の遣り方は滿洲國に限らず、特に華北に痛切に考へられることは、これらの資材とか資金と云ふものが日本の國內の餘剰を掻き出して來たと云ふ傾向があつたのであります。

所謂、日・滿・支一體の精神並に東亞共榮圈の確立を齎らすためにはこの滿洲・支那を日本内地と同様に着眼しまして、総合的に計畫して行くと云ふ、さう云ふ意味に於きまして資材、資金を特に向ふに送つてもらはねばならぬと思ふのであります。即ち、餘剰資金や餘剰資材のみを滿洲國や北支に送り出すのではなく、もつと計畫的に積極的に送り出すやうに大陸經營に對する觀點の轉換がなされねばならないと痛感する次第であります。この點につきまして先程山名弘報部長から日本精神の扶植につき色々申されましたが、これを悲觀的に考へれば非常に小政策が錯綜してゐるとも云へますが、これは日本個人でなく、大陸を據點とした日・滿・支一體を完成すると云ふ意味に於て色々一貫した大政策が生れて來る、さう云ふ點からして樂觀的に考へられないことではないのであります。吾々華北に職を奉ずるものは、日本の大體政策と云ふものがもつとどつしりと腹を据へて、さう云ふ點につきまして十分なる計畫、総合的な計畫經濟の行はれんことを希望してゐる次第であります。

問題は本腰を据へて掛ると云ふことであります。この一例と致しまして、所謂共產軍の地盤の一つで、治安が甚だ悪く、民衆工作にとつて非常な困難を伴つて居つた地に我が軍が永久的兵營を造つたことがあります。その結果、その地方住民は非常に落着いて治安も他の共產地區と比べて非常によくなつたと云ふことを屢々聞いたのであります。これは單なる武力と云ふ、武力の威力だけでもつて解決さるべきことでなく、永久的に日本が本腰を据へてゐると云ふこと、さう言ふ氣風が住民に滲透した結果だと言ふことを或る軍部の有力者が言はれたが、私も至極同感する次第であります。

最後にこの機會に於て一寸申上げたいことは、開發機構の再編成が必要でないかと言ふことであります。即ち北支開發、經濟計畫開發の再編成と言ふことであります。この北支の經濟開發機構を再編成し、本當の強力なる機關、機構の下に北支・蒙疆を開發して行かなければならぬと言ふ問題は、現地に於きましても相當議論がありまして、殆んど今日

に於きましては常識的な通説になつてゐるやうに考へてゐるのであります。現在のやうな開發機構、一言にしてこれを申しますれば、所謂法人公司の如き諸子會社の代理の如きことを行つてゐるのでは、所謂完全な管理乃至統一と云ふ事はなか／＼執難いのであります。例を滿洲にとつて見ましても、滿洲に於きましては、嘗つて凡ゆる事業を大滿鐵で經營した時代があります。勿論その當時滿鐵横暴の聲が色々の方面から起つたことも事實であります。

然しながら、滿鐵が総合的な會社として當時の滿洲を經營したと云ふことは、滿洲事變に當りまして滿洲國の結成、或は滿洲國の建國躍進に盡力したことは又疑ひないところだと思ふのであります。又、滿鐵の綜合會社が大なる機構の餘裕、人材の餘裕、その他所要の計畫、さう云ふ點を十分に持合せてゐたと云ふことが滿洲國の建國をして歴史的な、非常なる驚異的な事實を産んだと云ひ得ないと思ふのであります。

私も實は滿洲に嘗て籍を置いた關係上、滿鐵のやり方が良いとしての假定の印象を申し上げたのでございます。私自身滿洲國にも籍を置いて奉公したこともありません。これは滿洲に於ける滿鐵と對蹠的な立場に起つた滿洲國、その後北支開發會社に勤めたこともあるのであります。私は所謂大陸の國策機關の渡り鳥のやうなことをして來てゐるのであります。滿鐵が採つたと同様に北支開發機關と云ふものが今少し綜合的機構の下にやられたならば今日以上の効果を擧げられるのではないかと常に考へてゐるのであります。

この實例と致しまして、過般滿洲に旅行しました時一日を割いて滿洲重工業に参りまして滿洲重工業會社がどれだけの成果を擧げてゐるかを視察したのであります。歐洲大戰などのため滿洲國開發、經濟開發の事業は頓挫して遅れてゐると云ふことを聞いてゐるのであります。甚だ理窟を申上げて申譯けございませんが、その法人公司の組織は資本主義時代又は私的資本主義の機構としては或は理想的なものであるものであります。今日の統制主義、全體主義的な行き方を、然も國策機關として開發出來るやう再編成しなければならぬと云ふことを申上げて皆様の御研究に資した次第

であります。

華北・蒙疆と云ふものは、東亞共榮圈の據點であると云ふことを度々申上げましたが、東亞共榮圈と云ふ小さなものではなく、私は常に、これは亞細亞の據點であると信じてゐるのであります。華北に職を奉じてゐる私等が常に夢見てゐることは、我が華北鐵道を通じて將來中央亞細亞を通るパクダツト鐵道に我が國の幹線を延ばすことであると考へて居ります。若しパクダツト鐵道にして、中央亞細亞から締約國でありますドイツへの亞細亞貫通鐵道が完成しました場合には、日本の東亞共榮圈の確立は勿論のこと、亞細亞解放と云ふやうなさう云ふことの實現の機運を早めるのではないかと思ふのであります。

八紘一宇の精神と云ふものも亞細亞の解放、即ち色々な方面に於ける根本的政策、その中の亞細亞橫斷鐵道が我々の手に依つて完成されてこそ初めて亞細亞解放東亞共榮圈確立があると信じてゐるのであります。どうか我が華北交通の將來につき何分とも皆様の非常なる御協力を仰ぎたい次第であります。大變漫然としたお話であります。私の講演を終ります。(拍手)

溜 これをもつて午前中の日程を終り晝食になりますが記念撮影を致したいと思ひます。場所は左側の廣い庭であります、恐れ入りますが御足勞願ひます。食堂のテーブルには御自由に御着席願ひたいと思ひます。(一同記念撮影後食卓に着く)

溜 只今から午後の部に入ります、午前中に引續き講演「世界動亂と支那問題に就いて」坂西利八郎殿  
坂西利八郎 (貴族院議員興亞同盟總務委員陸軍中將) 大變結構な御催しに私が参列し得ましたことは洵に仕合せと存じます。何か話しろと云ふ御命令でございますが、私は至つて饒舌することも亦物を科學的に纏めると云ふことも極く下手な者です。唯長い間支那に居りました關係上、支那の事情を體驗しましたことにつき常に何かにつけ自分としては肚を

決めてゐると云ふことが私の事變への心がけであります。従つて問題は、大變大袈裟な問題でございませうけれども、その問題の大袈裟なのに拘はらず内容は極めて貧弱でありますからその御心算りで暫らく御清聴を煩はす次第でございませう。

申すまでもなくヨーロッパ戦争が遂に世界戦争化せんとしつゝあるのであります。その原因とするところはもう吾々が申さぬでも、結局世界戦争と云ふものは殊にヨーロッパ戦争は大抵イギリスが自分の貿易上の勢力を失ふこと或は折角今まで勢力を得たのが他所の國から壓迫を受けると云ふやうな場合には何時も起すやうであります。

昔ナポレオンが勢力を張つた場合にもイギリスが勿ちこれを抑へつけてしまひ、又ヨーロッパ戦争も第一回の如きはドイツの勢力が漸次に擴大されるのをイギリスが抑へたのであります。この間亡くなられたカイゼルの如きは恐らく、この間御崩御になる時非常に感慨無量なものがあつて御崩御になつたと存じます。今度はそれに加へてアメリカが恐ろしい力瘤を入れて居ります。豫ねて御承知の如く、アメリカは昔から吾々の東洋に向つて門戸開放を常に要求して居ります。第一世大統領のワシントン時代からあつて、今から百五十年前から既に東洋に向つてこの門戸開放を主張し常に之を要求して止まなかつたのであります。

日本との關係はベルリーの所謂嘉永年間、條約を結んだのが安政であります。恰度これは私の親爺が生れた當時と同じなので私は能く覚えて居りますが、それも今から勘定致しますと最早や九十年、百年近くなるのであります。その時に御承知の如く琉球で行つた態度と云ひ又、小笠原島を占領せんとした態度から申しまして既に侵略主義の標本をアメリカが世界に示したことは御承知の通りであります。

そのアメリカが、當時は御承知の如くイギリスは印度を手に入れてそして阿片戦争で支那に手を伸ばし、その伸した手で得たところの勢力に便乗してアメリカは支那で金儲けをして居つたわけでありませう。併しながら、イギリスは阿片戦

争以後百年間と云ふものは洵に見事な手を打つて支那を手の中に入れた、その後吾々が支那へ行き出してから羨ましく思つたのは、彼の支那の海關に對する態度であつたのであります。海關と云ふものはイギリスの手の中であつた、香港上海銀行を作り、財政及び金融上の勢力を占めた。この長い間イギリスが支那でとつた搾取主義と云ふものは大きなものであつたのであります。何うかしてこれを止めさせたらと昔も常に考へて居つたのであります。まあやつとのことで今日のやうな處まで漕ぎつけたのであります。

併し乍ら、香港、上海銀行の如きは全く關稅のお蔭で勢力を擴張することが出来たのであります。塩と云ひ煙草と云ひ何でもイギリスの手で先づ之を計畫し之を支那に實行したので、之等を見せつけられて居つた吾々はどうかしてひとつ挫いてやらうと云ふことを絶えず考へて居るのであります。アメリカはそのイギリスの勢力に便乗しながら、色々の機會で支那に勢力を植付けやう、又イギリス式にやらうと思ひながら、滿洲では、あの日清戦争以後試みましたが、到頭これが出来ずに日露戦争になり、日露戦争後も試みましたが、その時は日本ばかりでなく露西亞もそれに反對して例の滿洲鐵道中立も成り立たず、又、豫ねてから金融方面に手を出したいことは山々であつたのであります。そのチャンスがなかつたのであります。今度こそは將にその機會を得て、そしてこの際イギリスが弱つた時機に支那へ踏出してそして寧ろ支那を自分の手にうまく丸め込もうと考へてゐることは今日あり／＼と見えるのであります。

一方にはさう云ふアメリカの考へが今日行はれてゐるのでありますから御承知のやうに、今日重慶政府と云ふものは殆んどアメリカの意思を汲んで支那が動いてゐる、蔣介石は一舉一動ルーズヴェルトのお指圖を受けなければ動けないと云ふやうになつてしまつたのであります。殊に昨年の三國同盟締結當時から一層露骨にアメリカが遣り出しましたことは御承知の通りであります。又最近、日本とフランスが共同防衛を遣つた機會に資金凍結令を發表したと云ふことは一段と經濟的壓迫を日本に向つて試みるやうになつたのであります。

アメリカとしては、最も機會ある毎に一步々日本に對する壓迫を加へて來たつたのは、一方に支那を手の中に入れ、日本を除外して、まあ全く態のよい屬國扱ひにすると云ふことに自然と勢ひがなつてしまつたのであります。彼の最高政治顧問を遣つてゐるオウエン・ラティモアは御承知の通りアメリカでは支那通であります。その軍事使節マグルダも暫く支那に居つたことのある人で、アメリカとしては支那通を總動員して支那へ持つて來て働かせて居る。勿論船も拵へる、金も貸す、アメリカに必要な銅・錫など、その他の特殊鑛石なども手に入れる。支那に向つて否、蔣介石に向つて非常な援助を與へてゐることは御承知の通りであります。

就中ビルマルトに非常な力を入れてゐると云ふことも始終新聞に載つて居りますが、實際は寧ろ新聞以上力を入れて居ると思ふのであります。それはこのルートがなければ蔣介石を援助しようと思つても本當の援助が出来ないからであります。ソヴェート聯邦の援助と云ふことは今日は左程無い、と云ふのは、ソヴェートの本國とドイツとの戦争状態から推して想像されるのであります。同時に、ビルマルトに依るアメリカの蔣介石援助と云ふことが猛烈になつて來つゝあることは事實であらうと思ふのであります。

さう云ふ關係でこのアメリカと支那が結びついてしまつて、そして支那も不知不識の間に萬事アメリカのお指圖を受けなければ何事も出来ないと思ふ破目に陥つてしまつたのであります。其處で面白いことは、最近重慶の消息を聞きますと、アメリカが餘り力を入るものでありますから、これに對して大いに警戒を加へてゐる支那人が出て來たと云ふことでもあります。

就中今の金融問題、御承知の如く上海の法幣の價值が低落致しまして、昨日の如きは二十圓臺と云ふ所まで行つてゐるのであります。ところがアメリカが援助しつゝあるにも拘はらず法幣が下落すると云ふことは私ら素人考へとして非常に奇態であるのであります。恐らくそれは、どう云ふ關係かと云ふことを私個人で想像するのであります。アメリカ

の援助と云ふものが金融の國際關係に於てのみ行はれて居つて、一般の法幣の流通と云ふことに對して援助が差程深く行はれてゐないのかと思ふのであります。

上海の市場を拾ると云ふことがよく新聞に出て居ります。之等が一般に色々想像されて、つまり凡てが香港中心でありまして、香港では國民政府の發行した正しい法幣が外貨になるけれども、それ以外では外貨にならないと云ふところから益々下つて行くのではないかと私は想像してゐるのであります。従つてこのアメリカの今の遣り方は、結局支那がアメリカの屬國になつてしまふ遣り方であると云はれ、或る一部の者が此頃は大分反對を شدたたと云ふ消息、これは吾々に對する通報でありますから、實際よりも我が方に有利に聞へるやうに吾々の耳に入るのでありますけれども、まんなら全部嘘ではなからうと思つてゐるのであります。つまりアメリカの蔣介石援助が餘り熱心過ぎると云ふことなのであります。それ程アメリカが力を入れてゐると云ふことが茲に證明されるのであります。

只今の所では世界動亂は寧ろヨーロッパでイギリスとドイツの間で起つてゐるのでありますけれども、その後アメリカがちよつかいを出し、そしてイギリスをウンと扶ける、一方に於ては東洋で支那を助ける、そして樞軸側の總てが不利になるやうな行動ばかりを取ると云ふことは一般になつてゐるのであります。

アメリカは何時參戦するか判りませんが、要するに、ドイツとソヴェートの戦争の經過がどう云ふ道を進るか、それによつて決定されることと思ふのであります。このドイツとソヴェートの戦争は、吾々の研究は極めて皮相であります。何となく冬季に向つては消極的に推移するのではないかと云ふ氣が何となく致すのであります。ドイツと致しましても今日あたりの新聞を見ますと、ソヴェートの方はボルガの河まで退いて、此處で踏み留まると云ふ記事が見えます。又ドイツの方も何となくさう云ふ考へを持つてゐるやうであります。大體に於てボルガの線で冬を越すのではないかと云ふ氣が致すのであります。其處で、問題はドイツがイギリスの本國に向つてどう云ふ態度を取るか？、又アメ



リカに對する潜水艦の攻撃作戦をどう云ふふうにドイツが遣りだすか、萬一早く遣ると遣らぬによつて、アメリカの参戦と不参戦とが想像されるのであります。従つて先づこの冬期間は、ソヴェートとドイツとの戦争の結果が判然りついで、その結果に依つて吾々の東洋に大きな影響を與へると云ふことは先づないのではないか、之は全く私個人の意見でありまして、なんとなくさう云ふ氣が致して居るのであります。

此の如く大した影響が差當りないとしても、矢張り事變の處理は速やかにせねばならぬことは勿論であります。只今申上げたやうなアメリカの態度でありますから、なか／＼蒋介石もおいそれと尻古垂れないのであります。もう一年を過ぎましたから蒋介石も變つて居りませうが、昨年の九月の末頃は蒋介石も何とかして平和的に解決して行きたいと云ふやうな氣持を持つて居つたとの事でありまして、蒋介石は始終腰が痛くて弱つてゐると云ふことも噂されましたが、實際ではなくつて相當元氣で働いてゐると云ふことも判つたのであります。なんとか、平和的な話合が出来るのではないかと思ふたのであります。三國同盟が締結されるが早いか、アメリカは、御承知の如く早速一億ドルの借款に應じ、蒋介石の援助に一段と力辯を入れ出し、蒋介石が假りに平和解決を望んでもアメリカがそれを許さないと云ふやうな状態になつてしまつた。その當時の一億ドルと申しますと支那の金にして十九億元になります。そんな大きな金を譯もななく支那に貸付けて、そしてこの資金を自分の思ふ通りにしやうと云ふ、アメリカの悪者がついてゐる間はなか／＼この支那問題を解決すると云ふことは困難なのであります。

其處で、それではどうしたらよいか、アメリカが力辯を入れて吾々の手に負へないから放つて置かうと云ふて、放つて置く事は斷じてよくないと思ふのであります。其處でどこまでも遣つて行かなければならぬと云ふことは勿論でございますが、先づこれを先程のお話にもありますやうに、現在の戦争は國家の總力戦である、經濟方面からの戦争又は思想戦、斯う云つた方面から戦争を處理しなければならぬ、武力は申すまでもなく吾々の忠勇なる將士が第一線で働かれ、

何處の戦争でも負けた事のないと云ふ結果を齎らしてゐるのでありますから、吾々が彼れ是れ申す必要はないのであります。處が武力戦だけでは片付かないと云ふこともあるのであります。他の方法は何かと云ひますれば、先づ第一は政治工作。詳しく申しますれば、蒋介石の方に掛つてゐる看板は放つて置き、そして舊南京政府の門に掛つてゐた看板を重慶から取つて來た形にして、重慶の各國から承認された中華民國政府と云ふ看板を、元の南京の所に持つて歸つて來た。そしてその看板、即ち列國の承認した所の看板を、この方が眞物だと云ふて南京に掛けた、それが即ち汪精衛政権であります。

その汪精衛政権の掛けた看板の方が、正しいものであると云ふふうには、なるやうに、これを育成強化すると云ふのが、今日の日本のやり方でありまして、事實、どうもこれより外に方法は、政治工作としてはないのであります。それでもありますから、本年六月汪精衛が東京にやつて來て陛下からも一方ならぬ御優遇を賜りまして本人が感激し、爾來引續きやつて居るのであります。實際の所、未だこの政権の育成強化と云ふことが十分でないのであります。大體汪精衛の政治力と申しますか、統治力と申しますか、一般人民に對する政治の力がもう一寸充實して居りまして、それが善政であるなれば、この方が蒋介石政権よりは良い、と云ふことになり、そして少くとも日本の占領地域内の一般人民は汪精衛政権の方に對して悦服せぬまでも、これに従つて日常の生活をやつて行かうと云ふ氣持になるに違ひないのであります。

ところが、それがまだ十分に行かないと云ふことは、結局汪精衛政権と云ふものゝ政治力が十分でないことと云ふ證據でありますから、本多大使が行かれましたから一層この點に力を入れて、育成強化と云ふことが行はれるやうになつたのであります。あの當時、本多大使が歸りに京都で話された通り、其の當時は何となく、汪精衛政権は未だ政治が地に着いて居ない、と云ふ事を云はれたと雑誌や新聞に出て居た通りであります。當時私の觀るところも全くさうでありまし

て、本當に未だ地に着いて居なかつたのであります。この汪精衛政権の政治を地に着ける爲にやつたのが、最近の七月一日から始めました清郷工作なのであります。實は私は、これから北京に参りまして、それから南京の方へ行つてその實況を見やうと思ふて居るのであります。若しこの清郷工作の結果がよければ引續きこれをやるのがよいのであります。が、其處がどうもはつきり内地の方に傳はつて居りませんから實地に行つて見やうと思ふて居るのであります。どうも良い結果だと云ふ事が日本の方へまだ傳はつて居らないのであります。

是等と思ふやうに行かないと云ふ事になりますと、南京の政權、即ち汪精衛政権の前途と云ふものは一層困難になるのではないかと心配してゐるのであります。その中でも一番難かしいのは軍隊の鍊成であります。何故それが難しいかと云へば、金さへあれば出来るのじやないか、と云ふやうに簡単に考へれば出来ないことは勿論ないのであります。けれどもその内容を研究致しますと、其處に非常な面倒なことがあるのであります。それはどう云ふ事かと申しますと、第一は、今の南京政府と云ふものはその南京政府になる前に北京では御承知の如く臨時政府と云ふものがあつたのであります。

それから、南京の方には維新政府と云ふものがあつたのであります。その臨時政府、維新政府時代に訓練した軍隊は今尙綏靖軍として残つてゐる、之等の軍隊が地方警備に任じて居るのであります。その他にどう云ふものがあるかと云ふと、歸順兵、今まで蒋介石と氣脈を通じ、蒋介石の命令を受けて行動をしてゐたのが蒋介石の方から離れて歸順したと云ふのが大分各地に有るのであります。現に汪精衛政府の方に直接歸順したところの、李長江の軍隊約三萬と云ふものがあると云ふふうに新聞に傳はつて居ります。而してこの軍隊は、蒋介石の方から云ふと雜軍と云ふものであつて、中には随分土匪に毛の生えたやうなものもあるのであります。又北京には是亦北京の臨時政府時代に出来た綏靖軍、これは御承知の齊燮元と云ふ人が指揮してゐるのであります。

南京の今の政府の前の維新政府時代に、南京で拵へた綏靖軍、これは任授道と云ふ男が遣つて居るのであります。これもどつちかと云ふと謂ば日本式なのであります。齊燮元の指揮にある新銳軍約四、五萬、其處へ持つて来て汪精衛主席が自分の親衛兵を遣り出した。もう既に一師團位出来てゐるのであります。これはどういふ性質を備へて居るかと申しますと、矢張り國民黨の人達の手で拵へたものでありますから、國民黨の者に依つて編成されてゐるのであります。

それはどう云ふものであるかと云ふと、蒋介石が嘗つて民國十三年即ち大正十三年の正月頃、廣東の黃埔と云ふ處に士官學校を拵へて、ソヴェート聯邦から来てゐるガロンと云ふ男が主任となり、教育を受けた者が幹部となつて拵へた軍隊であります。此の如く、北京にある綏靖軍、南京にある綏靖軍及び歸順軍隊、こう云ふ三つの塊りの中に汪精衛の直接指揮下にあるところの近衛兵みたやうなもの、それは蒋介石が直接、今はやりませんが、蒋介石が昔から教育したその流義に倣つて出来たところの幹部が指揮をして編成されたところの軍隊が茲に一つ新しく出来たのであります。

こう云ふ内容を持つて居る色々の軍隊、即ち其の成り立ちの因縁を異にしてゐるところの四色の軍隊が有るのであります。尤も汪精衛と云ふ人が適當な教育をして之を統率して行けば心配はないのであります。政府の下にあまり多種類の軍隊があると云ふ事は統一上よい事柄ではないのであります。

政治工作と致しましても未だ頗る幼稚な處がありますが、之れは段々と育て、行けばよいのであります。要するに、此邊は吾々日本國民としても能く承知して、本當に一人前の政府になる様にしなければならぬのであります。去る七月一日から始めました清郷工作と致しましても、日本の軍隊が其の地域内に居つて協力してやつて居ると云ふ事ではありませんが、成るべくなれば、支那人の手だけでやつて行ける様にしなければならぬのであります。

尠くとも日本軍の占領地域内は南京政權の政治力が及ぼされて、然も地方の人民もその政治を謳歌する様にならなければ

ばならぬ。一般人民の謳歌する事に依つて、蔣介石政権と云ふものゝ遣り方が悪いと云ふ事を一般國民が批判認識するばかりでなく、事實その悪いと云ふ事を感じて、汪精衛政権の方の中華民國政府と云ふ看板をしつかり支えて、あれを正しいものにしてやりたいと云ふ一般の氣持が起る様でなければ政治工作がうまく行つて居るとは云はれないのであります。

次は經濟戰であります。之れが又アメリカの遣り方は、先程から申しましたやうに、洵に思ふ存分の遣り方をして居るものであります。金の點に就いては到底及ばない事を吾々も十分知つて居なければならぬのであります。先程も皆さんの御研究の結果をお話になりました如く、今は兎に角第一線で戰爭をして居る、併乍ら、第一線から一步下つたその後方は、國民が平時の状態に於ける經濟諸施設を運営して行かなければならぬのであります。今日の場合、最も必要なことであるのであります。

開發會社と云ひ振興會社と云ふものが、一日も早く合理的且つ理想的に、之れが好い結果、好い成績を得る様に、それこそ官軍民舉つて努力しなければならぬ事と思ふのであります。ところが吾々の耳に入りますのは、理窟は良いけれどもどうもその結果が十分でない、就中、支那の人との折合がうまく行かない、なにも殊更此方から頭を下げてかれこれする必要はございませんけれども、能く理窟の判つた遣り方をして、支那の人も安心して合作の出来る様にしてやる必要があると思ふのであります。

皆様には甚だ失禮な申し分かも知れませんが、私等に支那人の訴へます事は、どうも日本の方が、特に會社の重役の位置に居る人達が自分等を認めて呉れないと云ふ不平が多いのであります。なる程、支那人は會社の事に慣れなかつたり、又、日本の遣り方を知らないが爲に會社に迷惑をかける事もあらうけれども、支那人だつてさう日本人に必ずしも總てが劣るものばかりではない、一通り吾々の力を認めて相應の所まで使つて貰ひたい、と云ふのが始終吾々の聞か

される彼等の不平であります。どうかすると、矢張り昔からの「何だチャッコロ」と云ふ様な考へが、どうかすると表に現はれまして、支那人の人をして喜んで仕事を一緒に遣つて行くと云ふ氣持を、なか／＼起させないやうな傾向が、ともすると有る様に思はれるのであります。

此の間つまらない事ではありますが、支那人だつてさう馬鹿にしたものでないと云ふ事を、或る支那人から聞かされました。それは北京に、御承知のロツクフェラー財團の大きな病院があります。ロツクフェラー財團が造つた大きな有名な病院。其處には今アメリカの人は居ないけれども、アメリカへ行つて修業して來た有名な外科手術を遣る支那人の醫者が居ります。アメリカでも有名なドクターである。その醫者の所へ支那人の人が譯の判らぬ病氣を致しまして、日本の醫者にかゝつて居た所が、愈々これは駄目だと云ふ引導を云ひ渡された、其處でその人はロツクフェラー病院に行つて見て貰ふたところが、非常な重態だけれども一つ自分が切開をやつて見たならば或は助かるかも知れないと云ふので、その切開を遣つて開けて見たところが、日本の醫者の判断と違つてゐて、膽石か何かの石を出せばそれが癒るさうであります。

その支那のアメリカドクターが判断した通りであつて、それが目を経て全快したと云ふ、その事を私に云ひました。この支那人は得々としながら、日本人には勝てない、けれども、この事實に依つても、支那人の中にも日本人より其の醫術としてまさつた者があると云へるのじやないか、と云ふて威張つて居たやうな事があつたのであります。矢張りその病院中に、もう一人支那人のドクターが居りまして、これは腦を外科手術で修理するに秀でた外科醫でありまして、この二人共にアメリカでも有名なドクターださうであります。これだけを見ても支那人必ずしも日本人に劣つてゐるとは限らんじやないかと云ふて、子供みたやうに喜んで居たのであります。

支那の人が日本人と一緒に仕事をやつて居る間にも、こんな考へでやつて居る、と云ふ事は、吾々も能くそれをわきま

へて行つて行く必要があると私は思つて居るのであります。

開發會社と云ひ振興會社と致しまして、國策會社であります。第一線で戦争をして居つても、その直後に於て經濟諸施設をうまく遣つて行ける様に、支那人とみつしり手を握つて、支那人の力も借り、此方の力も貸してやり、お互に協力して經濟關係を善導することが出来るのであると云ふ氣が致すのであります。前方では作戦して居るのでありますから軍事上絶對重要な事は別として、其の他のものに就てはもう少し、總てを圓滑に、お互の事情を能く汲み取りつゝ行つて行くのでなければ、所謂高度國防の完成が期せられないのではないかと憂慮されるのであります。只今のところでは、何處へ行つても、私等と心易い間柄の支那人から不平ばかり聞かされるのであります。尤もその當を得てゐない不平もございますが、随分中には、當つてゐる不平も耳に入るのであります。經濟戰を行ふには、もう一寸、支那人を正しく取扱つてやる、其處に暖味を持つと云ふふうにしてやるのが日本の爲に必要ではないかと思ふのであります。經濟と致しましては、なるべく自給自足を計つて行くより、只今のところ外には途はないのであります。外國から物資を供給させようとするれば、茲に外交戰に勝利を得なければなりません。それには最近内閣が變りましたから或は何等か變動を見るかも知れませんが、アメリカとの關係と致しましても御承知の様な混沌たるものでありますし、又、今日あたりの新聞の論説を見ますと、望みが無いと云ふやうな事も新聞に云はれて居りますから、其の邊は如何やうとも不明でありますけれども、備へる事は十分に備へて置いて、萬一の場合には、チャンと此方の備へが出来て居りさへすれば、後はなるべく武力に訴へず物解決をするやうに、外交で片付けて行くと云ふ事が當り前の途だらうと思ふのであります。

恐らくさう云ふふうな遣り方をして居られるのではないかと云ふやうな氣が致すのであります。又吾々の素人考へから致しまして、例へば南方に向つて行く、兎に角、國家の生存權に關する問題と致しまして、アメリカ自身がゴムや錫が

是非とも必要であるから、蘭印は自分の生命線である。アメリカ自身があれだけの物資を持つて居り乍ら蘭印に向つてさう云ふ事を云ふなれば、日本は尙それ以上蘭印が大事であり、それこそ蘭印は生命線であるに違ひない、と云ひ得るのであります。蘭印を生命線と呼ぶべき權利は寧ろアメリカでなく吾々日本人の方にあるのだと思ふのであります。こんな理窟の判らないやうなアメリカ人ではないと考へられるのであります。此の如く、双方で蘭印は各々自分の生命線であると頑張つて居るのでは、なか／＼解決は困難であります。

外交上の事は今後どう變るか判りませんが、何れにしても吾に備へがあれば、どんな不幸な場合に遭遇しても決して心配する事はないのであります。

次は思想の方面。これ即ち思想戰でありまして、一口に申しますと、日本は兎角議論多く、實行の點に於て寧ろ缺ける所がありはせぬかと氣遣はれるのであります。吾々は口辭のやうに新秩序建設とか、大東亞共榮圈確立とか云ふ事を、もう耳にタコの出来る程、何處へ行つても聞かされるのであります。そんな人達は、甚だ口幅つたいやうな申分でありますけれども、一體新秩序建設とか、大東亞共榮圈の確立と云ふ事に就てどれだけの仕事をやつて居るかと云ふ事を考へて見ますと、興亞理念とか、新秩序建設と云つても、實は判らぬのだと云ふ者がなか／＼多いのであります。其處で成るべくそんな喧しい漢語を使はないで、新秩序建設と云へばつまり新體制、之れも亦判らぬ言葉だと云ふかも知れませぬが、更に柔らかく分解して見ますなれば、先程から申しましたやうに、昔からイギリスや、アメリカが、東洋に向つて施したところの侵略主義と申しますか、搾取主義と云ふほかに、自分ばかりに都合のよい、自分はモンロー主義を唱へて居つて、東洋に向つては機會均等、門戶解放と云ふやうな事を勝手に唱へてゐる。或は又、九ヶ國條約と云ふものを楯に取つて、日本は條約違反などと騒ぎ立て、自分等は既に條約違反をかす／＼やつて居り乍ら、日本ばかりが悪いやうに云ひ放つと云ふ事は、即ちそれが舊體制でありまして、之を改めさせなければ、吾々の考へて居るとこ

ろの新秩序建設、即ち道義的理解の下に國と國とが交際し合つて、同じやうな權益の下に相互の生活を安全に行くと云ふ、即ち日・獨・伊三國同盟締結の時に煥發された御詔勅の中にもあります「惟ニ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得セシメ兆民ヲシテ委ク其ノ堵ニ安ンセシムルハ曠古ノ大業ニシテ前途甚ダ遠遠ナリ」と仰せられて居りますが如く、實に前途遠遠であります。

けれども、その方面に向つて吾々が働いて行くと云ふ、即ち、新秩序の建設は、徒らに自分の力を持って支那を植民地的に取扱ふと云ふことをしない、それが新秩序建設であると云ふ事を、平たく、一般國民に能く理解するやうに之れを説明し、又教育するものは、それを自分が能く會得してから若い者を指導して行く、こう云ふやうに皆が十分なる理解を持つて遣つて行くと云ふ事が、一番此の際必要ではないかと思ふのであります。

それも議論ばかりせず、毎日の所謂、職域御奉公に依つてそれを實行して行く、早い話が、高度國防國家の建設と申しましても皆さう云ふものであります、例へば一つの品物を造るに致しましても、平生一つ造る間に、少しく力を込めて、同じ時間に二つ造る。二つ造る物は三つ造るといふやうに、一つでも餘分に造る。これ即ち御國の爲である、と云ふやうに、皆がこの様な氣持ちになつて然る後、支那國民に對して日本國民は先覺者だ、先進國たる日本民族と云ふものはこう云ふものである、と云ふ事を支那の人の前に見せ付けられる様に、先づ日本國民自身が自らを勵まして、其の先覺者たる資格を備へる。こう云ふやうに實行して其の現實を示すと云ふ事が、私は一番大事であらうと思ふのであります。

其處で初めて八紘一字の御精神が、我が國ばかりでなく凡ゆる國々、又國民に認識されて行けば陛下の仰せられる通りに、國體觀念を明徴にし、所謂「天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼セヨ」と云ふ御示しに全く合致するやうになるのであります。かようにして行けば、共產主義が侵入せぬ事は勿論、又支那の人は勿論、東亞諸民族を初め各民族が齊しく吾等に向つ

て何れも好い感じを持つ様に變つて来る、と私は固く信じて居る一人であります。つまらない取止めのない話を致しまして洵に恐縮の次第であります。長らく御清聴を煩はした事を感謝致します。(拍手)

溜 次は各地の大陸研究会の状況に就きお話をお願い致します。これは甚だ恐縮なお願ひではありますが、時間の關係上餘り長い時間が掛りませんやう、簡単に一地方十分間位の程度でお願ひ致します。

野村義郎 (吳日滿支協會理事長) 先陣を承はりました甚だ恐縮に存じます。結成順席と致しまして、吳日滿支協會に就きまして簡単に状況を御報告申上げたいと思ひます。

吾々が吳日滿支協會を設立致しました動機は、豫ねて私個人滿鐵の弘報隊の方と二度の博覽會を通じて色々の交渉連絡を致しました關係上、色々大陸に關する知識を普及させ、地方的にもつと基礎的大陸認識を普及しなければならぬ、殊に第一線で多年に涉りまして滿鐵が、所謂我が國の生命線の仕事に御努力をされて居る。これは獨り是等の先輩だけにお委せるのみではいけない、地方的に大いに御援助申上げる事が吾々の使命であると存じまして、地方的に大陸研究会と云ふものを造つてはと云ふ議が起り、昨年二月十八日に同志結合致しまして日滿支協會を設立致しました譯であります。之を設立致しました時に、在來の色々の會合は餘りにその地方の首腦者ばかり網羅されて設立された關係上、折角よい主旨の下に出來た會合が、動もすれば開店即ち休業と云ふ、有名無實なもの、組織になつてしまふ、さう云ふ事例が澤山あるのであります。吾々はどうしても實行力のある、推進力を持った、中堅層を網羅した組織で會員の會合と云ふ事を考へまして、五人の發起人が、市内に居住し且つ推進力のある人々を中核としたいといふ方針で適當に懇懇致しました結果、評判がよくて、大袈裟な氣持で約三十名と云ふ多數の會員が立所に出來た譯であります。

これには誰れが會の首腦者であるとか、誰がどう云ふやうな事をすると云ふやうな難しい組織は止めにして、三十人の會員が皆、會員であると共に役員である、又誰でも會員に成れると云ふ組織であると説明した譯であります。此の會員

の中には、教育家の方も居ればお醫者も居る、辯護士さんも居る、新聞社関係も居る、官吏も居る、實業界の人と云ふふうには色々の方面の人々で合作したわけでありませう。昨年二月十八日發會式をやりまして、二十二日偶々滿鐵弘報隊の方が内地にお出でになりました時に、當會の前途を祝する記念に態々お招きして有益なる懇談をし、座談をお願ひしたわけでありませう。爾後、展覽會・講演會・映畫會と凡ゆる方面を通じて、吳市の特殊事情を含味致しまして、今日まで大陸の研究に、認識に資して來た譯であります。殊に海軍當局の絶大なる御支援を得まして、今日まで比較的他の團體に見られない融和性を持つた、力強い發足を遂げてゐるわけでありませう。

會の組織と致しましても、誰れでも本會にお入り下さいと云ふのでなく、此の人ならば之に協力して行ける人間であると云ふ事を建前として入會を慫慂して居る譯であります。従つて同志として全員、事業に眞剣に當ると云ふ決心と熱とを持つて居るわけでありませう。會則の中に、入會を許された人々は先づ入會金十圓出す。十圓を出すすと云ふ事は、結局會員として自分の仕事をして行く上に大きな役割を持つと云ふ意識を持つて戴く爲にこう云ふ制度をとつた次第であります。又、一圓の會費では色々の仕事は出来ませんが、この一圓の會費で足りないかと云ふならば、既に今日足りないかと云ふ勘定になつて居りますが、會員全部がどしどし足りないだけ分擔するといふ氣持を持つて今日參つて居る譯であります。

殊に吾々の主眼と致します所は、吾々は永久に生きて行けるわけでないのでありますから、大陸の開發にはどうしても吾々より以下の、殊に中等學校、國民學校の子供の中で優秀な人々を指導して行くのが一番大切な事ではないかと云ふ思ひを致しまして、凡ゆる計畫、凡ゆる方法を盡しまして、今日では更に少國民教育に盡力して居ります。さういふ吾々同志が折角大陸を語り、深い認識を志して居るもの、實際大陸を知らないではその實は擧げられない、この意味から致しまして、役員と稱するものが六名ばかり昨年現地に參りまして約一ヶ月間北支及び滿洲全土に涉りまして視察致しま

して新な認識を致して參りましたので、これを基と致しまして約十七、八箇所に涉りまして、殊に國民學校を中心として滿洲事情、特殊事情を具さに語り、今後の教育に俟つと云ふ眞剣な手段を盡したのであります。幸にして今や色々の方面の共鳴を得て、吾々と致しましては特に其の効果を達し得た事を心窩かに喜んで居るのであります。

今後大々的に、凡ゆる機會を捉へ、國民教育を主眼とする大陸認識に向つて邁進すると共に、吾々の大きな使命に向つて粉骨碎身、前線に、現地に居られ大陸の開發に努力して居られる方々と共に、内地の人々に向つてその使命達成の爲に絶大なる努力を進めて行きたいと考へて居ります。折角吾々が豫ねてから考へて居りましたところいふふうな會合がやつと門司案内所の御幹旋に依りまして出来上りました事を衷心から喜んで馳せ參じた次第であります。

現地機關各方面の御出席を得まして、具さに現在の状況を御説明下さいます。多大の認識を得ました事を此の席から厚く御禮申し上げます。吾々もこの意味に於きまして、今後十分なる研究を進め、更に一層の御支援と御努力を得まして眞に生甲斐のある働きを致す様にお導きを願ひたいと思ひます。まだ色々な方面に就て申上げたいのでありますが時間がございませぬので、極く簡単に現状を御報告申上げて御挨拶と致します。(拍手)

溜 宮崎大陸事情研究会に就いて

竹内 勳 (宮崎大陸事情研究会常任理事) 御報告申上げます前にお禮申上げたいと存じます。宮崎は、昨年二千六百年記念に當りまして日向建國博覽會といふものを開きました。申上げるまでもなく、日向は八紘一宇の御精神の發祥の地でありまして、この御主旨に副ふ様に致しますにはどうしても大陸方面の御援助を願ひたい、こゝにいふ意味から致しまして、滿鐵をはじめ華北交通、駐日滿洲國大使館はじめ滿洲國乃至其の他の關係の會社の方々から大變な御援助を戴きまして無事に、日向建國博覽會が各方面の絶讃と好評裡に濟みましたのであります。之れ偏へに皆様の御後援の賜であります。特に發會式、或はその他の行事には態々御來會を願ひ、その後更に日・滿・支交際會と云ふものが催されまし

たのが十一月三日の事で、その時にも多数の方の御出席を得ましたが、大變好い機會でありましたので、私共の會長岩切章太郎氏の發案に依りまして、大陸事情研究會が華々しく當日發足致しました次第であります。その發足後十分その目的を達成して居る次第であります。先程も野村氏のお話の様に、吾々と致しましても門司案内所、大使館、其の他華北交通會社、その他の方々からのお話に依つて披露されました様に、今後大いに研究し、何時も先に立つて草を刈り羊に草をやつて行きたい、とこう考へて居る次第であります。

色々の事業は、博覽會の開催に當りまして私の方の出身地廣島に初めて歸つた時座談會を催しました。その他、共榮團展覽會、色々な映畫會をすつと續けて居る譯であります。その他特に私共の方で考へて居ります事は、縣の職業課と特に密接な連絡をとりまして仕事を進めると云ふ事、或は只今出來て居ります高等農林師範學校の大陸科を一層強化して行きますやうに努力致して行きたいと考へて居ります。特に先程のお話の様な鑛工技術員關係の方面に於きましては特に縣と致しまして青少年義勇隊などの關係もありまして、其等と能く折衷を取るのには私等の勤めではないかと考へて居ります。中央にも相當關係者が居りますので、さういふ點は、中央がうまくとりなして都合よくやつて行けばよいのではないかと思つて居ります。これを以て私の御報告を終りたいと思ひます。(拍手)

#### 溜 大分大陸研究會

溝口 宇 (大分大陸研究會幹事) 會の設立の主旨、會員詮衡の標準に就て、それから今日迄やつて参りました事柄と云ふものは大體に吳のお方と殆んど同じ様なものでありますから略します。唯、此方の會員には毛色の變つた會員、それは女性の會員であります。紅三點の女性の會員があるのであります。これは女子拓殖指導員と申しまして、それ〴〵縣下を受持ち、又女子拓殖員を大陸に送り出す爲に色々活動して居ります。これが會員に加はつて居りますところ一寸特異性があるのではないかと思つて居ります。

その他、私の縣には高等商業がありまして、其處へ本年から東亞科と云ふ大陸を対象と致しました科が新設されたのは全國の高等商業にも他に例がないのであります。特殊の教育を遣つて居る譯であります。それから師範學校にも大陸科と云ふものがあります。之れも大陸向の教員を養成する爲に設けたのであります。今日此處にお出でになつて居る別府研究會の都甲さんは現在この大陸科の講師をして居られるのであります。拓殖農林その他、中等學校課程の農林學校、これも矢張り大陸向の人材を養成して居る譯であります。

更に又、この三名の女子拓殖指導員も非常に弄走されまして、縣も數倍増員致しまして、本縣下七ヶ所に造る事になつて居る女子拓殖訓練所と云ふものがその拓殖農林學校に附設される事になつて居ります。これは未だ正式に開所して居りませんが、その前觸れと致しまして、講習會といふ形式で、大陸向け花嫁を養成して居るのであります。之等の點を特に御記憶願ひたいと思ひます。(笑聲)花嫁の必要があればひとつ御紹介願ひます。(笑聲)私共現状を見まして切實に感じて居りますのは、先程坂西閣下が御指摘になつた事でありまして。どうも國策の大眼目である大東亞共榮團確立と云ふやうな事が今日非常に抽象化してしまつて、國民に對する迫力を全く失つて居る様な氣がするのであります。御承知の様に、上は總理大臣以下、下は村長に至るまで、全く印判で捺した様に東亞共榮團確立が叫ばれてゐるのであります。従つて、國民は恐らく耳にタコの出來る程聞かされて居ることは坂西閣下の御指摘になつた通りであります。それにも拘らず、大東亞共榮團確立の具體的内容は何であるかと云ふ事はどうも、私共も勿論さうであります。判然りとして居らぬ。これでは大東亞共榮團確立の前途も益々遼遠であります。又その體制とか、滿洲の經營と云ふ事も亦非常に理解されないのではないかと思ふのであります。従つて私共滿洲大陸研究會のやつて居ります根本の心構へは、私共は勿論これに對する判然りした認識を持つと共に一般の人々をこの方面に導いて行くといふ、さういふ點にあるのであります。

併し國民の一人々々に大東亞共榮圈確立の内容を具體的に判然り認識させる、その認識が國民一人の血になり、肉になり、そして其處から力強い氣魄が生じた時に滿洲經營も、大東亞共榮圈確立も判然り成つ立つのではないかと、こういふふう考へて、その心構への下に研究會を組織致しました次第であります。實際認識不足の爲め間違つた事を致して居るのであります。これは本日此方に参ります途中、滿鐵東京支社長の方と御同車致しました時に申上げたのであります。私の縣は最近非常な水害に遭ひまして、或る郡が非常な損害を被つたのであります。その結果、大體農村の耕地が百町歩ばかり全く無くなつたのであります。まあ恐らく復興は困難であらうと考へるので、結局その耕地を復興さす爲には新しく土地を買ふよりも尙高い金が必要なので結局不可能である、その他土地をどうするかと云ふ大事を考へますと、そうでなくても滿洲へ向け澤山の農民を送り出すと云ふ事が必要であると考へて居りましたので、この機會にその農村を滿洲へ分村したいと云ふ事を考へて居るわけでありませう。

百町歩でありますから五反百姓、非常に耕地が少ないので五反百姓と稱する者が二百戸の半數、百戸送出すると云ふ事を考へまして色々な機會で説いて居りますが、不幸にしてこれまで分村計畫は、分村の實際が非常に成績が悪いのであります。殊にその地方から出て居ります先遣隊的なものが非常に成績が悪い。併しその成績が悪いと云ふのは、實は非常な思ひ違ひをして居つた。滿洲に行つた人々が非常な思ひ違ひをして居つた。これは縣がその農民を送り出す前に、滿洲開拓の重要性を能く認識させて行かなかつたのと、極めて調子のよい事を云つて連れて行つた傾向が非常に多いのであります。

その爲に今日さういふ機會が参りましたが、先づ早期計畫と云ふ非常な困難にぶつかつてしまふといふ状態が此處に大東亞共榮圈確立に對する認識、滿洲經營に對する認識の如何にも淺薄さがよく現はれて居るのであります。吾々はこういふ間違ひを再びやつてはならぬと私共は考へてゐる。併し乍ら、扱てやつて見ますと、先づ第一に人がない、機關が

ない、資料もない。有つても統一されて居ない、組織されて居ない、と云ふ様な事でありませう。來月は滿一年に成るわけでありませうが、今日大した他に誇る様な成績を擧げて居ない譯であります。これまで滿洲の各機關、或は滿鐵を始め非常な御援助を戴いてゐるのであります。今後共、右の様な氣持で遣つてゐるといふ事をお見届けになりました、これに對し一層適切有効な御指導と御援助をお願いしたいと思います。これを以て私の報告を終わります。(拍手)

#### 溜 佐賀大陸研究會の方

中尾都昭 (佐賀大陸研究會幹事) 私の方の大陸研究會が生れましたのは一寸趣を異にして居る様であります。私共佐賀縣では御承知の通り、吾々の先輩が既に古くから大陸と云ふ事に就いて相當の經驗を持つて居られ、澤山の人が以前から大陸の色々なる方面に抱負を實行してゐられるのであります。それらの後成功者又は大陸に往來する人々に對して縣の方の世話が少くない、と云ふのは、中等學校に學ぶ子供など親の轉任毎に學校を變るのが非常に困るといふ様な事に向ふに居られる方が云はれてゐる。先づ私など、さういつた事のお世話をしよう、連絡係をしようといふことが大體吾々の目的でありまして、その後大陸に行つて相當成功して郷里に歸つて來たが餘り歓迎を受けない、若くば自分の期待を裏切られた、もう再び郷里にも歸りたくない、といふやうな事を述べて大陸に歸入る。初めて偶々郷里に歸つた人をお世話するとか、花嫁をお世話するといふふうにして、色々お困りの點を補つてあげるといふ、つまり吾々は連絡係りであります。

初めは滿洲邊りに嫁に行くといふのを非常に喜んでゐたのであります。近頃は段々滿鐵の社員の所に嫁に行くといふ人が非常に少なくなつて來た、これは要するに、滿鐵あたりの社員に嫁に行つた人が大分中途で仆れてしまつた、直ぐ病氣をするといふやうな事を云つてゐる。又、無理に滿鐵社員でなくとも近頃は何處でも相當の待遇を受けるといふ考へを持つて居りますから、滿鐵社員等に嫁に行かぬやうであります。



さういふ風な事を私等も聞いたのであります。元來大陸に行くことには、身體の關係を先づ考へ、嫁を世話しなければならぬと吾々も考へ研究して居るのであります。先程大分の方のお話の時に、開拓民を募集する時に、向ふに行けば一時に何町歩、何十町歩の大地主になれる様な講演をして歩き、向ふから来る人なり又縣なりが責任を果す爲にどうも實際問題と違ふ様な話を聞かせて、愈々今度滿洲に行つて見たところが、その講演なり、勧められたところが全然違ふと云ふ事で、吾々の先輩鷺崎さんが郷里に歸つた時に相當に各方面から非難を受けたと云ふ様な事もあつたのであります。色々間違ひがある爲め、非常に大陸の先覺者なり先輩が色々努力した事が中途で挫折しどうもうまく行かぬ、これは本質的に、吾々新聞に關係して色々な連絡に携はるものがその役割を果さなければいけないと云ふところから、色々な同志を集めてさういふ會を造りたいと思つて居たのであります。

丁度昨年、滿鐵門司案内所から招待を受けまして親しく大陸を見せて頂き、吾々は同時に又考へを新にしたと云ふ所を見て戴きたい。そして結局この大陸研究會を造る事になり、相當縣の有力者に加入して貰つて凡ゆる方面に今努力して居るのであります。吾々の大陸研究會が造つて居る仕事であります。縣會議員其の他の有力者が一年一回宛縣から補助を受けて滿洲・北支に慰問に行つて居ります。それは殆んど大陸研究會員であります。今年も約四、五名の人が開拓民慰問と云ふことで相當の經費を貰つて慰問に行つて居ります。花嫁講習會或は開拓民に對する新らしき知識普及等に縣の職業課から相當の費用を貰つて、研究會が一手にそれらを引受けて遣つて居ります。吾々大陸研究會の大體の目的は前申した通りであります。新しき認識をもつて、今少し開拓民其の他大陸關係の色々の事業に對して縣當局も亦縣民も心からお世話をするに云ふのが大體の目的であり、その方向に進んで居ります。又、表立つた仕事は會としては展覽會を遣るとか、來年は博覽會を遣る計劃があります。而して會員達の研究會、開拓農民學校、農民講習會といふものを漸次計畫のつもりで、皆なこうして活動して居ります。今月の末から一ヶ月の豫定で四、五名の人が縣の方の囑託

を受け慰問に出られる様になつて居ります。現在の私の方の會はそれ位であります。

この現下の時局に就き色々人の話を聞きますと、私なんか自分に餘りピツタリした話を聞かれませんし、どうもまだ足りないといふのは、支那の民衆が現在日清・日露の戦ひといふものを知つて居るだらうか、それから、日本の國民全部の人でも、安政年間に千島が露西亞から占領されたといふ事を日本人の一人の人でも知つて居るといふ實證があるか、私はさういふ考へをすると共に、日露戦争若くは日清戦争で勝つたといふ事は唯日本人のみが知つて居る事であつて、露西亞にも、支那でもさう言ふ事は、現在の支那の國民が知つて居るだらうか、さういふふうに私共は考へて居るのであります。

今次支那事變の解決と言ふ事は兎に角、支那の民衆に日本の強いと言ふ認識を判然りさせる、日本の強いと言ふ事を知らせると同時に、何時まで戦つても兎に角自給自足の途は出來るといふ氣構へを知らせる、さういふ事以外に方法は殆んどないかと思ふのであります。この聖戦中に或る相當の地位の人が、今度の戦ひは持つて居るものと持たないものの戦ひと言ふ、さういふ無責任な事を言ふ人があつた。吾々は少くとも持つてゐる、持たないと言ふだけの戦ひはしたくない。少くとも、精神の大義名分の立たない戦争は吾々はしたくない。さういふふうな考を持つて居ります。其處でその大陸を研究するといふ事その裏には、少くとも一心に色々な説教を遣つて居られる方が支那の大陸で、日本の強いと言ふ事や、何時まで戦つても日本は決して物資的に缺乏しないと言ふ認識を判然りさせるといふ事が、この時局を早く解決させる途でないかと思ふ。少くとも吾々は凡ゆる物を耐へ忍んで、北支なり滿洲で現在遣つて居る所の事業を一時も早く實現させれば解決を告げるのであるといふ事を銃後國民に對し之れを叫びたい。又、當局に對して鞭つといふ、さういふことが一番よいのではないか、北支に於ても滿洲に於ても、中途半端な事業設備をあの儘にして置くと言ふことは、支那に對して日本の脆弱面を曝す原因になりはしまいかと言ふところを、そんな例を私共は昨年親切に見

せて戴き歸つて來ました。

それから東京へ行つて凡ゆる先輩の人に、あの中途半端なバンド邊りの工場若くは北京の華北開發事業にしても、支那に大きな土地を買ひながらそれを何時まで経つても造り上げる事が出来ないといふ、あゝ言ふところを見せつけられ、又あの儘放つて置くといふ事は我が國として大いに考へなければならぬ事で、出来るものなら一日も早く造り上げ、日本には物資が澤山あるぞと言ふ様な氣構へを見せて貰ひたい、と言ふ事を此の席から申上げたいのであります。

私共研究会でも、さういふ事をひとつお互が研究し合つて、この大陸の色々な調査にも役にたつなければといふところから、私共がこの大陸研究会を遣つて居る所以であります。吾々郷里からも大陸にそれ相當に行つて居り、歸つた者があつた時はその人の中に色々な歓迎會を開催し、彼方の話を聞き此方の話をする。又大陸に渡る人の連絡係をさせて戴くといふ、之れは私共大陸研究会を遣つて居る目的であります。私の縣の研究会の狀態、私の希望を簡単に述べて御挨拶に代へます。(拍手)

溜 次は鹿兒島縣

小原驢馬 (西日本興亞聯盟理事) 本會に對し一言御挨拶申し上げたいと思ひます。

實は昨年門司鮮滿支案内所の御招きに依りまして私共は大陸に視察に参りました。此の時は十九人の團體でありましたが、今日はその内十二人のお顔が揃つて居るのであります。大收穫になつて居ります。どうも長い間大變皆様に失禮を致しました。甚だ失禮であります。此の席で當時の御禮を申し上げます。

又、滿鐵御關係の諸會社、華北交通、或は又朝鮮總督、又滿洲國政府、蒙疆方面その他凡ゆる御關係の方面に依りまして、實に筆にも舌にも盡し難きところの御接待に預りました。あの當時吾々に對して眞心から接觸せられました御待遇は、私共今尙思ひ起すだに感謝の念に堪えないのであります。御關係の方々のお集りではありますが、皆様に對して此

の點厚く御禮申上げると共に御歸任の上はそれ〴〵關係者の方にどうぞよろしく御傳言お願い致したいと存するのであります。

私共を引率して下さいました方に色々御無理も致しましたが、それにも拘はらず全く手の届く程色々御心を砕かれまして洵に有難く存しました。私共が最後にお別れして個々別々に歸りましたが、御親切な引率者に別れてからは、恰も赤ん坊がお母さんに別れた様な思ひでありまして、泌々とそれまでの色々御待遇が身にも骨にも達しまして嬉しく感じられ、又心細く考へたのであります。眞に其の人を得たりであります。私共滿鐵にこゝろいふ御親切なる方の有ると言ふ事を深く心に念じて當時の御禮を申述べたいと存じます。

借、御承知の如く我が鹿兒島に於きましては、既に維新に當り大南洲先生に依つて十分明らかであります通り實に明治初年來、大陸政策の爲、あの通り征韓論が分裂致しまして西南戦争が起り、不幸遂に戦ひ利非す彼の有様となりましたが、今尙ほ公會堂の前に儼然として東を望んで居る大南洲の銅像を見まして、私共大陸政策の重要であることを示唆し居る如く考へるのであります。

私は高知縣の出身であります。少年時代に、南洲先生と共にこの征韓論の爲に散花した板垣退助先生の下に育つた者であります。二重にも三重にもこの退助先生から何時も示唆を與へられてゐるのであります。又、鹿兒島縣には日本海の戦争に於ても、世界の聖雄東郷元帥を出して居ります。その他、海軍の名將も薩摩出身者が多いのであります。奉天の會戦に於ても即ち滿洲軍總司令官に大山元帥が活動せられ、又幾多の將星を出して居ります。現地に於きましては鹿兒島と致しまして非常に多數の人々を大陸に送つて居りまして、滿鐵にしろ、その他炭鑛業の重役にも鹿兒島縣出身の方が非常に多いのであります。こゝろいふ様なわけでありまして、比較的縣民も大陸といふ事に關心を持つて居ります。私共こゝろいふ會を設けましても非常に遣りよいのでありますから、發起人を中心に有力なる方面の方五十人を捕

へて居りますが、會費は一厘も取つて居りません。この點、私の會は特異なものであると思つて居ります。

併し經費は一厘も取りませんが、寄附しやうと言つて下さるものは喜んで受取りますが、此方から要求は絶対にしないのであります。私共新聞社員が遣つて居りますから會員には請求がましいことは致しません。色々の催しを致しますれば經費も要ります。併し乍ら金を使はずに、人に迷惑をかけずに何とかして遣つてみよう、こゝいふ心構へであります。或は本願寺と連絡をとりまして追悼會を遣つたり、聯盟主催で遣る講演會、映畫にしても市と相談をして遣るといふ方法でやつて居ります。今後と雖もさういふ方法でやりたい、どうしても會費を出して貰つたんでは長続きしませんから、私はさういふ方法でやらうと存じて居ります。今後又、吾々に代りましてさういふ方面に努力される方に對してもこの方法でやつて戴きたいと思つて居ります。唯一つの特徴と致しましては、私共新聞社は宣傳には非常に好都合であります。いざ催し物をしやうとしても、會場の施設をしたり、宣傳をしなれば人は集りません。殊に之れが大陸問題の様な眞面目なる問題に對しては知識階級の人ですら往々にして會へ來ない場合が多いのであります。どうしても大會をやります前に豫め準備が必要であります。演說會を開くにしても、講演會を開きましても、どうしても十日前、二十日前から新聞に依りまして宣傳して置きませんと集つて呉れないものと思つて居ります。

又私共が非常に感謝に堪えない話があります。此處に御出席になつて居ります鹿兒島商工會議所理事長の堀さんであります。この方は池畑商工會頭に次ぐべきよい有力者であります。堀さんには堀さんの下に居られるところの神宮司書記、此の御二人が非常に會に對し力を入れて下さつて居ります。毎日私の方と一緒に遣つて居りますから、此の點が大變力強く感ぜられるのであります。又、今度内閣が出来まして、外務大臣東郷さんの弟で鹿兒島縣商工獎勵館長であります東郷さんも會員として非常に協力せられて居ります。吾々は昨春秋、紀元二千六百年奉祝の大典に參列の榮に浴しましたが、その場合に俄かに政府の方からお招きに預り海外移民功勞者として表彰されました方に有村文次郎と言ふ

方があります。この移住組合理事長の有村氏も非常に力を入れて下さつて居るのであります。今日は有村氏も、他に會合がなければ出てよいと言ふ様なお話であつたのであります。それから職業紹介所の方面に於ても連絡を取つて居ります。幾多の團體と氣脈を通じて居るのであります。

さういふわけでありまして、現在は比較的活動が仕易くなつて居りますのみならず、また色々な催物の場合には滿鐵の門司案内所の方が大變忠實に努めて居られるのであります。試みに申しますなれば、過般大阪の總領事館の方がお出になりまして、協議會を開きました場合にも、特にこの西日本興亞聯盟の會員を呼んで呉れと御指名になつて歸つたといふ事以後で承知致しました。又、鹿兒島實業學校といふ市立學校であります。之れが滿二十五周年の創立祝賀會を開きまして、それを記念致しまして大陸の展覽會を今開いて居ります。

それに次ぎまして又滿洲の座談會を案内所と相計つて開く事に相成つて居りまして、この二十七日に開く事になつて居りますが、さうした場合に於ても、御招待状を拜領致しましたが、縣廳、市役所、商工會議所、西日本興亞聯盟といふ様に本會を指定してあるのでございます。案内所からこの御指名になつたといふ事を東京から態々來られまして、貴方の方の誰を呼ぼうと言ふお話のあつた場合、堀さん、東郷さん、有村さん、其の他の人を御推薦申上げた次第であります。又過日滿洲國大使館の秘書の方が態々鹿兒島新聞社をお訪ね下さつて、丁度日曜であり不在でありましたので私宅にお出でになりました。貴方の興亞聯盟の御援助をお願いしますと、これも滿鐵の門司案内所と協議を遂げて貴方を訪問する次第である、とこゝいふお話でありました。

又、今日お越しになつて居りますところの滿洲鐵工技術員協會の方が過日お越しになりました時にも、私をお訪ね下さいまして色々交渉を致しましたのも事實であります。斯様に興亞聯盟があるといふそれ自身、非常に御相手の關心と便宜になりまして、彼れ是れ圓滿に協議を致し得る様に私共は致して居るのであります。これは全く案内所のお力にほか

ならないと存じます。興亞聯盟の存在を認められてゐるといふ事に對して、一層力を注いで遣らなければならぬと言ふ感じが甞らされるのであります。私共も、大陸の認識を強化する、こういふ事に重點を置いて居ります。なるべく大衆本位で遣らうと言ふ、こういふ所に重點を置いて遣ります。認識強化と宣傳に今後益々努力邁進致したいと存じます。幾多申上げたい事が多いのでありますが、今日の大會を契機と致しまして、將來益々さういふ方面に努めて一層皆さんの御援助をお願い致して置きたいと思ひます。甚だ失禮であります。御報告致します。(拍手)

#### 溜 興亞親善協會

長谷信夫 (興亞親善協會幹事) 會の設立經過に就きましては既に印刷されてありますから省略致します。

會の名稱が大陸研究會と言ふ事ではなく、興亞親善協會と言ふ名前になつて居ると言ふことは一つの理由があるのであります。これは會則にも明らかでありますやうに「本會は大東亞民族の親善協和を圖り其の重大性を廣く國民に徹底せしむると共に、内外國策に順應すべく研究調査を爲すを以て目的とす」と、こうあるのであります。どうしても大陸を研究しますその前に、當前この日滿支の協和親善を圖らなければならぬと言ふのは勿論であります。

廣島には御承知の様に文理科大學、高等師範、高等工業學校、廣島高等學校、この専門學校に滿洲・北支・蒙疆から留學して居る生徒が四十四、五名居るのであります。どうしてもこの日・滿・支の發展の上にはお互に民族の協和を圖らねばならない、之れには一番手近な運動として既に相當の學生がある。この學生がどういふ氣持を持つて居るだらうか。留學生が廣島に来て、廣島がどういふ考へを持つて迎へて呉れるだらうか。之れを中心にとつ各地の實情を學生を通じて聞き、更に吾々が本當に滿洲國と提携して遣るので、又支那とも蒙疆ともお互に扶け合ひ、この大東亞共榮圈確立に努力しなければならぬと言ふ氣持を示したいといふので、この親善協會といふ名前を付けたのであります。現在の學生は四十五、六名であります。蒙疆から參つて居る學生が一名、北支から三名、その他滿洲國の留學生を含んで居

ります。この學生を時々この會に呼びまして、卒業の日には卒業の祝ひをし、或は又新に入つて來た學生に對しては廣島と程遠からぬ岩國の錦帯橋といふやうな物を見せてやる、或は講演會を遣るとか映寫會といふやうなものを催す事に努めて居るのであります。更に吾々會員が集つて、この大陸問題に就いて研究を續けて居る。その外に、幸にも滿洲にも長らく居られ又蒙疆にも暫らく居られ、兩國の言葉に能く通じて居られるところの松井少將閣下が廣島にお出でになりました、この研究會の爲め御盡力をお願いする様話したのであります。快く承諾して、進んで之れはやらねばならぬものであつて、それでは會長といふその職務を引受けやう、と言ふやうな事になりました。大變に都合よく運んで居るのであります。

この春、蒙古の徳王氏が來朝せられました時、そのお歸りの時、會員全部が蒙疆の國旗を造つて驛頭にお見送りをしたのであります。松井少將閣下も徳王に會はれまして、親しく蒙古語をもつて話して居られたのであります。吾々が常に集つて話して居りますその中に、私共も昨年幸にその視察團に加はる事を得まして大體廻る事を得たのであります。色々お話を聞いて見ましても、日本の開拓民といふものを百萬戸滿洲國に移駐せねばならぬと先程述べられました。滿洲の地を開拓するには百萬戸、二百萬戸必要があるかも知れませんが、併し日本としても、現在この滿洲國・北支の開拓は勿論遣らねばならぬ、又この新政策と言ふものも當然起つて來る問題であります。それには日本の人口を少くとも四倍にしなければならぬので思ふ様に開發は出來ないと言ふやうな話もあります。けれども。結局人口をさう急速に増加するわけには参りませんので、午前中中村理事官からお話がありました中に、一朝有事の場合滿洲の産業、國防資源の開發、其の他産業の總ての物の機能を破壊される恐れがある、と言ふ、こういふ話でありましたが、御尤もな事と私も思ふのであります。

併し乍ら、日本の移民の開拓が思ふ様に行はれないといふ先程坂西閣下のお話にありましたやうに、支那の民衆を理解

し、喜んで合作する様に努めなければならぬと言ふお話でありました。それと睨み合せまして、日本の人々や、滿洲に活躍して居られる所の方々が滿洲人の氣持をも少し汲んでやつて、四千二百萬の滿洲人と、滿洲に土着して居る日本人に所謂、順應同化せしむると云ふふうの指導し、眞に五族協和、王道樂土としての恩恵を浴く及ぼすと云ふふうにして行つたならば、此の移民開拓と云ふものも、あの勞働力の旺盛な滿洲人にも遺らしたならば、日本人は直ぐ成果を得られるのではないかと云ふことが、即ち親善協會の會員の會合の有りました時に話題に上りました、之等に就いては些か本日午前中承りましたお話とは若干考へが違つて居る様でありますので、之等に對してお話を承り度いと思ふのであります。

又、北支の産業開發と云ふことに就いては午前中の御講演で承つたのでありますが、私共昨年参りまして聞きます處に依ると、どうしても北支の産業を完全に開發し遂げる上に於ては、鐵道の輸送力の強化、鐵道の建設とか、或は改修、又は港灣の修築等、當然必要視されてゐるやうな状態であります。之れには十六億の資金を要すると云ふことを承つて居るのであります。これは既に華北交通會社が御計畫になつて居るやうなお話を承つて居るのであります。こゝに於て居るのでは差當り資本關係に依りまして、或はその運用方針が變るのではないかと思ひますが、吾々はどうしても、滿洲國が大東亞の建設とか、或は東亞の新秩序の確保とか云ふやうな事に就いての基調であり、日本に對し、將來大切な關係に有る國でありますから、この滿洲國の實狀を判然と吾々が認識すると共に、その施設方法等に就いてはこれからどういふふうの開發して行かれるのか、さういふ事柄も許される範圍に於て承り度い、こゝに於て考へて居るのであります。

吾々は常に會合を催しまして、色々の滿洲・北支方面、或は南支方面に直接視察し、今度も行かれる大學の先生方がお出でになりますので、さういふ方から色々のお話を承つて、色々それを参考にして居るのであります。今後吾々會員

は滿洲國並に北支の認識を一般に深めさせる爲め、所謂推進力となつて努力しやうと考へて居るのであります。この吾々の會をして出来るだけ御便宜と御指導を今後お願いしたいと考へて居ります。些か所懐の一端を述べまして御報告に代へます。(拍手)

#### 溜 別府大陸研究会

飯倉士郎 (別府大陸研究会幹事) 別府の方の研究会は些か特徴を持つて居るのであります。この結成に當りましては、隣に居られる大分高商の都甲さんからお話がありまして「方々に大陸研究会が出来つゝありますが、別府も大陸に益々關係が深くなつて來ましたから研究会を作らう」と云ふ御相談がありまして、私仕事の關係上矢張り大陸との關係が深いのであります。早速相談を致しまして、會員は大陸に關係を持つ人、或は大陸に長く居られた人、大陸事情に通じて居られる人々を中心として三月に結成致しまして、滿鐵門司案内所青木さんの御力添へで大陸研究会と云ふものを結成されてはと御相談がありまして初めて會が企圖され、こゝに於て組織されたのであります。

御承知でないかも知れませんが、三十年前から大陸に活躍せられまして、日本よりも大陸の方に長く居られ、滿洲事變當時非常に活躍して將軍の恩命に浴した都甲氏は、大分高商の大陸科の講師をされて居る方です。さういふふうの大陸事情に非常に通じた方で、私は甚だ大陸の認識に缺けてゐるのであります。之れ迄二、三度旅行しました。これも旅順から哈爾濱迄の間を、滿鐵沿線一帯を見て廻つたに過ぎない、吉林に一寸寄りました位の事で認識が足りないであります。

別府は御承知の様に温泉で持つてゐる都市であります。民國人もよく立寄つて居られたとの事でもあります。この別府は二千三百の泉源を持つて居り、その泉質は世界藥劑界から認定されて居る温泉十一種類の中八種類を持つて居るわけです。温泉の藥効的効果は凡ゆる方面にあるのであります。現在大陸で活躍致しまして傷つた傷病勇士を收容

して居ります。立派な病院を始め、厚生省傷病軍人療養所並に滿鐵療養所、滿鐵館、逕信省の保養所、鐵道省の療養所、こう云つた方面の療養所を始め工業工場の療養所を澤山持つて居ります。殊に大陸に關係がある滿洲青少年療養所の興亞村、最近では申上げて差支へないと思ひますが、滿洲電々の療養所も出來て居るやうに承つて居ります。又、數日前滿洲電業の理事が別府にお出でになりましたが、滿洲電業の療養所も出來ると思つて居ります。大陸關係の療養所も今後續々實現すると思ひます。

又さういつた關係で、別府は大陸の人士の交通につき非常に縁故が深いのであります。別府の人達は勿論、吾々の記憶に残つてゐる國務總理靳雲鵬、今をときめいて居りますが一時別府に亡命して居つた事のある華北綏靖軍總司令をして居ります齊燮元、それから新しいところでは現在の華北政務委員長王揖唐氏、また朱深氏、かういつた方も最近此方にお見えになつて居ります。又蒙古方面では、徳王を始め各部長等、要人が別府に足跡を印して居るのであります。滿洲國張國務總理を始め國務大臣、諸公顯官、要人が殆んど全部別府の土を踏まない者はない程であります。過日滿洲に参りまして國務院に張總理を訪ねましたところ、滿洲國の人は日本を旅行する時は別府に行けると云ふて非常に喜んで居る、と云ふお話でありました。別府はさういつた關係上非常に大陸とは縁故が深いのであります。今後も、さういふわけでありますから、益々大陸との交通は頻繁になると思ひます。又、滿洲方面から來られる方に對しては、出來るだけ親善を圖りたいと云ふのが此の別府研究会の眼目になつてゐる次第であります。

尙さう云つた土地柄でありますから、本日御列席の方々に別府に御用のあります方は、どうか御遠慮なくお申付け願ひ度いと存じます。又療養所の設立に就いての交渉等がありました場合は、研究会と致しまして、出來るだけの御斡旋を致したいと考へて居る次第であります。(拍手)

溜 次は松江大陸研究会

太田直行 (松江大陸研究会) 私は別の方面から御報告申上げ度いと思ひます。

私共は激しい商工會議所の職を持つて居ります關係上、これから例の轉廢業問題と絡んで、商工業の大陸發展問題が相當の問題となつて來て居ります。何かと現地の方に御厄介を懸ける事が多々あると存じます、宜敷くお願ひ致します。吾々が非常に遺憾に思つて居ります事は、既に聖戰四年を経過致して居りますに拘はらず、滿洲の事は之は古くから相當の計畫が有りまして、島根縣なども非常に縣民が行つて居るのであります。殊に支那に關する限り、一體政府は何をして居るのか、どう云ふふうにかから國民を導いて行くのか、東亞共榮團の確立であるとか、大陸進出であるとか事柄は全く立派であります、さてどう云ふふうに善導して行けばよいのか、政策の具體案が少しも示されて居ないのであります。ウクライナのドイツが占領した地區では、ウクライナ農業經營と云ふ事に手を染めたと報ぜられて居ります。これも新聞の報道でありますから、どの程度本當に事態が進んで居るのか吾々國民には明らかにされておないのであります。あれだけの犠牲を拂ひ、あれだけの國境で對峙の上今日に至つた真相が判然りしないと云ふ事は、吾々國民の心構へに與へてくれる影響は洵に深く、又遺憾千萬な感じが致して居ります。これは偶々私の認識不足の致すところかも知れませんが、出來るだけ一つこう云ふ事は早く、具體的な事が十分判らなければ輪郭だけでも判然りとお知らせ願ひ度いものであります。

而して今日我が國の内外は困難な状態に置かれて居りますけれども、私共の見ますところでは人間に於て、物資に於て、殆んど半分のものが遊んで居ると云ふ感じがするのであります。何も遊んで居るわけではありませんけれども、もつと計畫が具體的に進められてゐるならば、人手も物資も、もつと有効適切に國家のお役に立つて居ると思ふのであります。今日國策が判然りしない爲め遊んで居るやうな形になつてゐる。而して吾々に示された案なるものが悉く消極的なものゝみで、こんな事で一體よいのかと云ふ感じがするのであります。最近商工業の相當數量に上る轉廢業問題が起

つて居ります。市内に居つた人達で、今日私としては出来るだけ早くさういふことが示されて、而して希望を以つて國民が大陸に出掛けると云ふ、さう云ふふうに行きたいものだと思つて居ります。本日の席上當を得ないけれども、起ちました序に所懐を申述べて置きます。(拍手)

溜 次は福岡ですが、準備進行中ではありますが、何かお話が有りましたらどうぞ。

船津和夫 (福岡日日新聞社) 福岡の状況などに就き申上げます。本年七月福岡市に於きましては、躍進満洲大展覽會と云ふのが開催されたのでありますが、その出品物は、満洲と致しまして門外不出の國寶、其の他藝術にしても實に大陸に於て誇るべき物を多量出品されたのであります。さう致しまして、福岡市民の前に見える物二百數十點を突破するといふやうな状況で、この種の展覽會と致しまして實に大成功であつたのであります。

この展覽會開幕中、更に福岡市民に満洲及び北支といふものゝ認識を深めさせると云ふ意味に於きまして、大陸研究會を開いてはどうかと云ふ話も持ち上りまして、その準備會を兼ねまして大陸座談會と云ふものが七月十日開催されたのであります。その際、駐日満洲國大使館から池村さんを始め、滿鐵調査部の方、華北交通の方等が出席され、地元からと致しまして工科大学の教授五名、其の他新聞・雜誌、商工會議所會頭、町村長會長等二十數名出席しまして、實に熱心なるところの意見の吐露があつたのであります。それに對し、縣廳からお出でになりました三名の方々の事變前の大陸の情況、將來の見通しと云ふ事に就きましてお話があつたので、その話は非常に吾々出席者に對しまして有益であり、裨益するところが少くなかつたのであります。

而してその際、鮮滿支案内所の青木さんから、大陸研究會を福岡にも設立してはどうかと云ふやうなお話もあり、出席者も皆賛成して戴いたのであります。故に吾等と致しまして直に發會式を擧ぐべきであつたのでありますが、新聞界を襲ひました革新に直面致しまして、その發會が今日まで遅れて居つたのであります。併乍ら既に新聞界の新體制と云ふ

ものも目鼻がついたやうな状況であります。故に、近く發會式を擧げたいと斯う考て居ります。既に設立發足されましたところの他地方の研究會に劣らない活動力のある研究會を作りたいと念願してゐる次第であります。これを以つて私の御報告と致します。(拍手)

溜 熊本の準備状況を

北 利民 (九州日日新聞社政治部長) 熊本は未だ研究會も發會されず準備進行中でありまして、各地の目覺ましい活動の報告がありましたに對して、實はお羨しいやうな次第であります。只、準備進行中にも拘はらず既に事務所は持つて居ります。事務所は熊本の海外協會内に置いて居ります。結成されないのに事務所と云ふのは少し變であります。兎に角そう内定致して居ります。それから會長には陸軍中將の深尾武平閣下の御快諾を得たのであります。その他會員と致しましては、學界、實業界、海外關係者等を網羅して居ります。大陸機關と致しましては滿蒙研究會、東亞聯盟、海外協會と云ふやうに色々考へて居ります。それからこの團體であります。各地の研究會を縦と致しましてその團體を横に連絡致しまして活動しましたならばどうかと云ふ感じを持つたわけでありまして、

熊本縣の現在の大陸に關する關心は、青少年に非常に旺盛になつてゐる事を申してもよからうと思つて居ります。滿蒙開拓青年義勇隊として相當出てゐるのであります。高等工業學校學生、一般青年の氣分は非常な發展性を持つてゐるやうに感じたのであります。その他一般にしても、大陸に對する關心と云ふのは相當熱があることを申し上げたいと存するのであります。近く發會式が擧げられるので、皆様の御援助をお願いしたいと思つて居ります。これを以つて御報告を終ります。(拍手)

溜 これ各地研究會の状況に關するお話を終りたいと思ひます。未だ外各地新聞代表の方もありますが、時間の關係上甚だ僭越であります。これを次の懇談の中に入れてたいと思ひます。御賛成願ひたいと思ひます。これから懇談に入り

ます。この懇談に入ります前に實は緊急動議が出て居ります、どうぞ。

**小原驪馬**（西日本興亞聯盟理事） 甚だ失禮でありますが、一寸動議を提出したいと存じます。本日は滿鐵を始め華北交通の主催に依りまして又、駐日滿洲帝國大使館、日滿鐵工技術員、滿洲移住協會の御後援に依りまして最も御有意義なる催しをせられました事に就きましたは、私共一同衷心御禮申し上げます。こうして意見を互に交換致しますると云ふ事は、非常に得る所が多いのであります。百聞は一見に如かず、吾々は既に大陸視察の機会を終へた次第でありまして、加ふるに本日こういふところの大會を御催し下されましたのは、錦上花を添へるものであらうと存じます。主催者側並に御後援の皆様お集りの方々に對しまして御禮申し上げます。

加ふるに本日午前中に於きまして古山先生、島先生、中村先生、隈部先生、山名先生、中保先生のお話又は御講演が並びまして、この間私共非常に啓發せられるところが非常に多かつたのであります。又午後に於きましては、坂西閣下からは割切有益なるお話を承はりまして、時節柄、私共其の裨益せられるところ多大であつた點に對しまして、皆様に對しまして深く御禮申し上げます。

こう云ふ話を承ると共に、私共はこの大陸研究機關と云ふものが今日の時勢に即應致しまして、又今後に於けるところの國策遂行に伴ひまして、非常にこれは有益なる催しであると云ふことの自信を私は持つに至つたのであります。今後益々この機關を維持、發揚致したいと存するのであります。實は今迄の施設と云ふものは別々個々に發企されて居りましてこの中核となる機關と云ふものがありません。それに就きまして、私共は本日の大會を契機として茲に聯合會の旗擧げを致してどうかと存するのであります。併乍ら未だ本日は色々の行事もありますからその餘地がなからうと存するのであります。就きましては、甚だお骨折りでありますけれども、滿鐵の門司案内所にこれが御幹旋をお願い致しまして、本日は聯合會を適當の機會に開くと云ふ大略だけを發表してはどうかと存じます。

私の此の提議に依りまして、この動議がよいと云ふことになればよろしいのですが、併し、何か茲に吾々が文字の上で意思の表徴を致さうと云ふ方がありませんなれば、どなたか起草委員を設けまして極く簡単に、それだけの言葉を殘してはどうかと存するのであります。皆様の御賛成がありますなれば如何やうにでも取計ひ度いと存するのであります。御一同のお考は如何でありますか。（拍手）

**野村義郎**（吳日滿支協會） 只今の御動議に對しまして私双手を擧げて賛同致します。實は私も、西日本に於ける大陸研究會が大陸に最も近い位置を持つて居りますと共に、色々な部面に涉りまして力強い結成をしなければならぬと云ふことを豫ねて考へて居つた次第であります。測らずも今日、斯くの如き御申出を戴きましたことは衷心から感激致しますして發言したのであります。この席上斯くの如き御動議を御提出になりましたことに對しましては双手を擧げて御賛同申し上げたいのであります。

只今申述べられた通り時間の關係上此處で直に發足すると云ふことも如何かと存じますので、色々の事は御面倒でも案内所に御幹旋をお願いする事に致しまして、取敢ず横の連絡をとつて、強固なる協力を以つて吾々の目的達成に邁進すると云ふことに致しますれば非常に好都合とも存するものであります。只今お願いしましたやうな意味に於きまして、皆様の御協力を願ひたいと存じます。（拍手）

**秋田卯一郎**（長崎民友新聞社編輯局長） 只今皆様方の大陸に關する眞剣なるお氣持を承りまして吾々は感激致したわけでありまして。只今大陸研究會開催を拜見致しますと、獨り長崎縣だけが出來て居ないと云ふことを拜見して洵に恥入つて居るやうなわけでありまして。

實は此の席に出席致しまして、この研究會があると云ふことを存じたやうな次第でございます。私は一新聞社の者で、これを語る資格が有るか否かは存じませんが、少くとも長崎縣市民と致しましたも、大陸に對して無關心であり得ない



と云ふことは勿論、茲に無關心でないこと云ふことはつきり表明致して置きたいと存じます。由來長崎は、現在日本の最も西端でありますし、支那大陸とは最も近い港であります。然も長崎港は開港三百年有餘、日華貿易の上に於きましても凡ゆる支那の文化を輸入致しまして、日支關係に於きましては、既に三百年有餘の昔から密接な關係にある事は御こと、存じます。現在に於きましては、日華連絡船が隔日に發着して居ります。色々支那大陸に於ける情承知の報も聞いてゐるのであります。唯遺憾ながら、北支・滿洲方面に於ける關係は、機關その他地理的關係から致しましてどうも他人のやうな嫌ひがあるやうに考へます。然し長崎と致しましても、滿洲國に對しては十分に希望と關心を持ちまして、縣、市に於きましても青少年義勇隊或は開拓團と云ふものを既に募集致しましてこれを送つて居るやうな次第でございます。

吾々も歸りましたならば、この席上で聞きました、この大陸に對する眞劍なる御氣持を長崎縣市民に對しまして、これが具體的宣傳に着手したいと考へて居ります。一言御諒解を願ひ發言して戴かせたやうな次第であります。(拍手)

溜 別に御異論はありませんか。(拍手)

小 原 皆様の格別の御協賛に依りまして、これは御承知を得たものと認めます。(拍手)

それでは只今の御同意に従ひまして起草委員を設けたいと存じます。私は南九州の代表でありますから、起草委員として北九州、中國の方の委員を御推薦したいと存じます。

北九州の方の委員は比較的少いのでございますから、大分方面の溝口さん、稻富さんにお願ひ致したいと存じます。(拍手) 中國の方は吳の野村さん、鎌田さんにお願ひしてはどうかと存じます。(拍手) それでは、委員の方は甚だ御面倒でありませうけれども、極く簡單で宜しいのでありますから、どうぞ案文作成の上御發表願ひたいと存じます。懇談の御司會は滿鐵案内所に於きまして宜しくお願ひ致します。(拍手)

奥村純松 (門司鮮滿支案内所々長) 只今鹿兒島の西日本興亞聯盟の小原さんから御動議がออกมาして、吳日滿支協會の

野村さん、その他御一同の御賛同がありまして、御提案の主旨を文字を以つて現はすと云ふことに相成りました。草案作成には起草委員間にお打合せを要すると存じますので、此の間のお世話を案内所の方でお引受けすることに致します。では起草委員の方は暫くお席をおはずし願ひまして原案を練つて戴きたいと思ひます。それではどうぞ暫くお待ち下さい。

溜 それではこれから懇談に入ります。

粕谷益雄 私は東京支社の粕谷でございます。懇談の進行を遣れと云ふお話でありましたので司會させて戴きます。

懇談に入ります前に、先程來際意なきお話の中に東亞共榮團と云ふ言葉がออกมาして色々御意見がありました。共榮團問題に就きましては尙吾々と致しましてはつきりしない點があると感ぜられるのであります。丁度翼賛會の中保さんがお出でになつて居られますから、中保さんに共榮團問題をお伺ひしたいと存じます。

中保興作 (東亞局連絡部副部長) 實は先にお禮を申し上げ度いと存じます。先程來西日本に於ける興亞運動の研究實情を親しく承りまして、私共非常な大きな土産が出來ました。西日本興亞關係團體の國民的常會が開かれたやうな感じがした次第であります。先程來承りました色々なお話の主旨を體しまして、各般の運動の状態、情報等を蒐集したいと考へて居ります。

さういふ意味に於きまして、本日は洵にこう云ふ會合を開いて戴きました事を感謝に堪えないのであります。東亞共榮團の事に就き只今粕谷さんからお話がありました。一體東亞共榮團と云ふものは何處から何處までの範圍であるか、實はそれも公的には明確に定まつて居ないのであります。

政府當局にその説明を求められた方もありますが、責任の衝に立つ政府當局としては何處から何處までが大東亞共榮團

であると言ふ事をはつきり言ふと、外交上色々な支障があると見えまして、極めて漠然とした話しか公けにせられないやうであります。地政學者の間では大體日・滿・支三國、佛印、泰、ビルマ及び蘭印、フィリッピン並に東經百八十度線までの西太平洋に於ける諸島を含むと言ふのが通説ではないかと考へるのであります。ところが、この大東亞共榮圏の觀念もドイツ流のアウトルキー經濟、廣域經濟圏の觀念とは違ふものと私は考へるのであります。

今申しましたところの範圍を大東亞共榮圏と見て差支へないのでありますが、これだけでも實は完全なる自給自足は出來ないのであります。従つて、廣域經濟圏大東亞共榮圏の觀念そのものゝやうに考へるのはどうかと思ふのであります。大東亞共榮圏内の具體的事情等を申上げたならば非常に長い時間を要するので抽象的に申しますれば、丁度昨年十一月二十四日發せられた日滿華共同宣言の中にも言つて居りますやうに、大東亞各民族それ〴〵本然の特質を發揚しつゝ、經濟上、政治上、或は文化に就き協力して行くと云ふ事になるわけでありまして。

昨年既に御承知の如く、日・滿・支三國經濟建設基本綱要或は國土計畫と云ふものが發表されたのであります。これは適地適人主義と云ふのを取入れて居ります。日本は今日の經濟發達その他からして、支那と共に工業方面に力を入れる。滿洲は世界の食糧の寶庫と云はれる國でありますから、食糧増産に力を入れる。と云ふやうに、三國それ〴〵の特質を發揚しながら、三民族協力一體となり、中核となつて行くと云ふところに大東亞共榮圏の一つの具體的部面があると思へるのであります。

尙、大東亞共榮圏の確立の目標には、私は其の他にも尠くとも二つの目的があると思ふ。一つの目的は、長い間歐米の人種に壓迫され或は搾取されて居る亞細亞民族を開放して、彼等をして自主自營出來る様にしてやると云ふのが一つであります。又もう一つは、東洋を基礎として世界の新しい秩序を打ち建てるに在る。と申しますのは、速く廻れば國際聯盟に言及しなければならぬが、國際聯盟は第一次歐洲大戰といふ多大の犠牲を拂つた結果として出來たものであ

りますが、併し乍ら實際には、御承知の通り英佛等が、かの大戰の勝利の結果をあくまで確保しようと思ふ利己的野心をもつてこれを利用しやうとしたところに一つの缺陷がありました。同時に、一元的、觀念的世界主義をもつて全世界を、全世界の秩序體制を打ち建てやうとしたと云ふところに特に重大なもう一つの缺陷があつたのであります。

私共考へまするに、人類の實情に即する發展を圖ると云ふ點から觀ますると、幾多の秩序階層を必要とするものと思ひます。例へば、大分縣下の問題は、大分縣の方々が先づ集つて御相談下さると云ふのが適切であつて、若しも大分縣の問題に就き、滿洲、樺太、台灣の人等が集つて協議しても大分縣の實情に即するやうな解決は出來ないと、こう考へてゐるのであります。

觀念的一元的主義はまさに此の缺陷に陥りました。現に滿洲事變の時は如何でありましたか。滿洲に何の認識も無い國々、又滿洲に對して何の權益もない國々までが参加して事を議した結果があつた不合理極まる決議となつたのであります。これはどうしても先づ歐洲は歐洲、米洲は米洲、東亞は東亞と云ふやうに、それ〴〵の土地々々で、又世界全體の問題は更にそれ〴〵秩序圏代表が集つて話合ふと云ふ方法を探らなくては實情に即した解決が出來ないと考へるのであります。

現に御承知の通り、米洲大陸に於ては既にそれが汎米會議と云ふ名で行はれて居ります。昨年のハヴァナ會議でもう九回になります。米洲大陸全土の、即ち北米、中米、南米の諸國の代表が集つて經濟關係、司法關係、其の他各種の取極めを致して居りますが、更に、米洲大陸のどの一國が侵害されても、それは同時に米洲大陸全體が侵害されたものと見做して、米洲大陸全體がこれを共に防衛しやうと云ふ申合せをさへして居ります。これは明らかに米洲大陸の新秩序建設計畫と云はなくてはなりません。然るに、それにも拘はらず、日本が大共榮圏確立に努力しやうとする事に對してはあらゆる妨害を加へるのであります。自己矛盾も甚だしいものと云はなくてはなりません。

九ヶ國條約に關する論議が、最近いろんな人々の間にテラホラ行はれて居ります。或人はこれを解消せよと云ふことを主張して居ります。又或る人々は、東亞の現狀に鑑み九ヶ國條約は宜しく修正すべしと云ふことを主張して居ります。併し、解消せよとか、修正せよと云ふのは、現に九ヶ國條約の存続することを認める考へ方でありませぬ。私から云へば、九ヶ國條約は既に事實上解消して居り、また法理的にも解消してゐると考へて居るのであります。

その理由を簡単に申し上げますと、九ヶ國條約を眞先に蹂躪したのが英、米であります。大正十三年の臨城事件が起るや、支那鐵道の部分的國際管理を主張したのがイギリスであり、米國は之に直に賛成したのであります。昭和三年上海の排英事變に當り英國軍隊が上海に上陸するや、米國軍艦は英國軍艦と共に砲先を揃へて南京市街を砲撃した事もある。ソ聯邦が外蒙古及び新疆省を完全に其の掌中に收めてしまつたが、之に對して米・英兩國は嘗て抗議をしたことがない。斯くの如く、一の條約が十九年もの長い間棄て、顧みられず、否、屢々蹂躪されたといふこと其の事は、同條約の自然的解消を意味するものに外ならないのであります。

従つて、今日、九ヶ國條約を解消せよとか修正せよなどと云つて、現に同條約が存続することを認むるのは洵に奇怪千萬と云ふべく、徒らに英、米側の宣傳に利用されるばかりである。吾々は斯る言動に對しては嚴重なる警戒を要すると思ふ。

實は今日の會合に出ましたのは粕谷さんからお話を承りました時からで、粕谷さんとも御相談申上げたのであります。大日本興亞同盟は、御承知の通り七月六日東京で開催されたのでありまして、この際、内部機構の整備といふことに鋭意努力して居ります。何れ東京で粕谷さんと連絡をとりまして御相談の上、何か御報告申上げたいと思ひます。

島 一郎 (華北交通東京支社長) 東亞共榮圈の問題に就いて、眞面目なる色々の御質問なり研究があるやうであります。すが、私は餘り知識もなく、従つて私の申すことが徹底するかどうか判りませんが、極く最近この問題に遭遇した時の

お話を致します。

先日東京で興亞聯盟の最高幹部の一人と會談した事があります。その時私はその幹部に、興亞聯盟と云ふのは大體どんな範圍を唱へるのか、大東亞共榮圈と云ふものとういふ範圍の相違があるのか、若し興亞聯盟と大東亞共榮圈とが一致するならば、興亞聯盟と云ふことは結局東亞共榮圈の範圍である、然らば、東亞民族であるアフガニスタンとか、ピルマとか、印度はどうか、乃至西藏はどうか、さういふ事を申上げたのであります。

一體、大東亞共榮圈と云ふものは時には共榮圈と云ふ名にもなり、或時には大東亞共榮圈と云ふふうに変るが、東亞共榮圈と云ふ言葉は日本が揚棄してかゝる必要がないか、又、東亞聯盟と云ひ八紘一字と云ふ時は理論的に辻褄が合はない。全世界を打つて一丸とした八紘一字の精神であれば、大東亞共榮圈と云ふことは少し範圍がせますぎはしないか、又これと矛盾はしないか、又、東亞と云ふ言葉はこれは理窟つばい話であります。極東と云ひ、何を起點として東亞と云ひ大東亞と云ふのか、一體極東とか、近東とか、中東とか云ふことは何を基準としてゐるか云ふに、これは歐洲の西洋文化の東漸、即ちイギリスを起點として近東と云ひ、中東と云ひ、極東と云ふてゐるのである。

我が日本は八紘一字と云ふ大精神を振り翳してゐるが、イギリス中心の極東聯盟と云ふやうなものを作つてゐる、これは間違ひではないか。又、共榮圈と云ふことは結局共榮圈と云ふ言葉そのものがはつきりしてゐないが、御承知の如く、イギリスが日本の世界的進出を喰止める爲め講和會議を開いた時、イギリスが共榮圈の問題を取上げたのであります。而して日本がこの自衛共榮圈と云ふ言葉を取上げた最初の問題は恐らく滿洲事變直後、某有力者が、日滿共榮圈、日滿自衛權と云ふ事を云ひ出したのが初めではないか。八紘一字と云ふ大精神に對し共榮圈と云ふことは、古來利己的意味はないのではないか、こう云ふ質問を發して、相當その幹部を手古摺らしたのであります。

この時幹部は、然らば君はどう云ふ意見を持つてゐるか云つたので、私は平素の自分の考へてゐる、東亞共榮圈を日

本が揚棄して、寧ろ大亞細亞開放の目標に向つて行くべきではないか、と話したのであります。その時その人も、かなり同感の意を表すると共に、その問題に就いて更にもう一步眞面目に考へ直すと云つて別れたのであります。

それと前後して、これも矢張り東京で開かれた某教化團體會合の席上、東亞共榮團と云ふ問題が論議された時、その指導者が、東亞共榮團と云ふ言葉がよく使はれるが、その東亞共榮團と云ふ意味は何處にあるか、と云ふ質問をしたのであります。私はその幹部連中に向つて、今少し君達が擧つて東亞共榮團を揚棄してかゝつて、總ての民族をはつきりした方向に導くべきものでないかと思ふ。一體、八紘一宇の御精神は全世界の相剋摩擦を無くする、全世界を平和の樂土に導くことがこの御稜威の精神ではないか、これ即ち世界人類の平等和樂である。これを考へれば、謂ば一つの人の種問題、特に白人の横暴と云ふことはさし當り人類の偏見と云ふ一つの現はれではないか、尠くともこの日本民族に於ては、白人種のやうな横暴はやりたくない。世界平等樂土と云ふのは亞細亞開放と云ふ言葉であると申したのであります。

こう云ふことに就いては或雜誌に私の意見を發表してありますが、この意味からして東亞共榮團と云ふ文字は使ふべきものではないのであります。大東亞共榮も結局亞細亞民族の開放の一つの段階にすぎないのであります。亞細亞の開放と云ふことに向つて、官民軍一致團結して邁進しなければならぬと考るのであります。これは私が極く最近経験した一つの考へ方を御披露申し上げた次第であります。(拍手)

奥村純松 (門司鮮滿支案内所長) 只今緊急動議の御提案があり、それに引續きまして起草委員の御委任があり、起草委員間に於きまして只今決議文の御草案が出来たやうに拜します、御報告申します。

溝口 宇 (大分大陸研究会) 決議文起草委員の御指名を戴きまして、一同別室に下つて相談した結果、草案が出来ましたので御披露致します。

### 決議

支那事變ヲ完遂シ大東亞共榮團ヲ確立セントスルハ我が國ノ一大國策ナリ、而シテコノ國策ヲ建設シ具現スルニハ一億國民ヲ深キ認識ニ基ヅク確乎タル信念ト勇猛ナル氣魄ノ下ニ動員スルニアリ、西日本大陸研究会ハ即チ茲ニ寄與スルタメ設立サレタルモノナリ、我ガ日本ニ對スル内外ノ動向ハ愈々以ツテ眞摯敢闘スルノ極メテ必要ナルヲ痛感スルモノナリ、茲ニ大陸研究会ノ團體ハ愈々其ノ組織ヲ整備シ益々活動ヲ活潑ナラシムルハ勿論、各團體相互ノ連絡ヲ緊密ニシ以ツテソノ活動ヲ一層効果アラシメン事ヲ期ス

右決議ス

昭和十六年十月廿五日

西日本大陸研究会

かやうであります。(拍手)

それではこの通り決議致すことと致します。今後吾々は、この決議に向つて一層努力致しますのは勿論であります。案内所に對しては洵に御迷惑であります、これに對する今後のお世話をお願いする次第であります。

堀 勇吉 (西日本興亞聯盟) 御面倒ですが、決議をガリ版にお刷らせ下さいませんか。

粕谷重雄 (滿鐵東京支社第一弘報係主任) 引續き懇談を續けたいと思ひます。御挨拶の中にも、講演の中にも、色々話題が提供されて居りますので、それを中心に、特に研究会の方々から忌憚のない御質問、御意見をお願いしたいと思います。別の問題は出しませんから、御自由にお願ひ致したいと思ひます。

山名義鶴 (滿洲移住協會弘報部長) 先刻來いろ／＼お話を伺ひ有難く拜聴致しました。滿洲の開拓事業も今年度で第一期五年間の計畫を完了する譯であります、大體に於て、計畫の十萬の人が出向いて参つたのであります。私は、こ

の成績は世界の殖民史上大いに誇つてよい素晴らしい成績であると思ふのであります。なるほど歐米の各國は毎年多数の移民を國外に送出致して居りましたが、それはすべて出稼ぎ移民であつた。我が滿洲開拓民の如く、國家の理想を背負つて大陸へ隊伍を組んで移動をした如き國家的、民族的進出とは全くその質を異にして居るのであつて、この點よりしまして、滿洲へ十萬の我が民族が移動したこの開拓第一期の成績は、既に之を世界の殖民史上に誇りとしてよいと信ずるのであります。

この開拓民は、これから滿洲を舞臺として新しい文化を建設するのであります。滿鐵に於かれてはその援助の下に、牡丹江の横道河子に開拓科學研究所を設け、滿人部落、白系露人部落の生活文化の科學的研究に努力せられ、今後その成果を持ちまして、開拓團の衣食住の改善、農耕開拓の文化建設の好参考指針たらしめんと云ふ立派な成績を挙げられました事に對しまして、私はこゝに敬意を表する次第であります。

この開拓村の生活文化の建設と云ふ點は、今後の最も重要な問題であることは申す迄もありません。滿洲へ移住した我が農民が優れた豊かな生活を建設するのでなければ、何の爲めに大陸へ行くのか譯が判らぬと云ふことにもなるのであります。今日までの第一期の五年間は、兎に角、速かに一定の數だけは入れなければならぬと云ふので、入る者も、入れる事の世話をする者も夢中であつたのであります。

開拓村に致しまして、始めは夢中であつたが、夏を迎へ冬を凌ぐにつれて、自分の入植して居る附近の、自分の村を圍繞して居る異民族が何者であるか、段々と判つて來、これに興味を持つ様になつて來ます。自分を取巻く自然に注意を拂ふ様になる。そこに新しい開拓生活の文化建設が始まるのであります。

また農耕法に就きまして、初めは滿人の農法を真似てそれに習熟する事に努めたのであります。今日の段階に於ては、北海道農法を参考として新農法の採用に苦心し、畜力農具による極めて良好なる成績を挙げつゝあるのであります。

す。之等の動向に就ては、大陸研究會の方でも一つの問題としてお取上げになつて、今後充分御研究願ひたいのであります。

この方面の認識が深められまして、滿洲開拓事業が内容的に、具體的に、且つ日・滿を通ずる日本民族の新しい文化建設の問題として考察される様になります。これを私は衷心から祈言して居る次第であります。尙、もう時間も切迫して居る様であります。青少年の訓練、興亞教育の問題に就て一言申し上げ度いと存じます。

滿蒙開拓青少年義勇軍の運動は昭和十二年から始まつたのであります。これはまさに我が青少年訓練、興亞教育の先驅をなしたものであります。そして今日の段階に於ては、この青少年義勇軍的青少年訓練を、全日本の青少年に及ぼすべき時に到達致したと信じます。次の日本を荷負ふべき國民全部を訓練し、興亞教育を厳しく與へます時にこそ、日本の大陸建設、東亞共榮圈建設の聖業は完遂致すのであります。

先程來お話にありましたやうに、今日大陸に居ります日本人が餘り面白くないのが多いと云ふ狀況は急速に改善せられまして、大陸にこそ最も優秀なる國民が進出すると云ふことになりませんければ、大東亞の建設は望み得ません。私はこの大きな問題の解決點を探究致しまして、今更らの如く青少年義勇軍の深き意義に思ひ及び、義勇軍運動が一層皆様の御援護を得べきことを望んで止まぬ者であります。(拍手)

佐久間勝森 (駐日滿洲帝國大使館二等書記官) 私は大使館と新京の經濟部に籍を置きまして、主として勞務動員計畫並に政府要員の採用考試及び訓練關係の仕事を担当してゐる者で御座いますが故に、本席を拜借致しまして一言お願ひを申し上げ度いと存じます。

御承知の如く、日支事變の長期化並に國際情勢の緊迫化に伴ひまして、勞務需給に關する統制は日に月に強化され、物動計畫、資金計畫と併行に日・滿・支間の勞務者の適正配置政策は總動員法第六條の全面的發動に依りまして更に高度

に統制されつゝあるのであります。

従ひまして、日本内地より滿洲に導入する勞務者（註、勞務動員計畫に於ける所謂勞務者とは、雇傭契約に依り賃金を貰ふ者は學士と云はず、勞働者と云はず勞務者たる觀念の範疇なりその解釋に依る）にして、特に勅令又は行政措置に依り規整を受くる者は總て企畫院に於て日・滿・支間の割當が策定せられるのであります。

即ち、東亞共榮圏の確立、就中アウタルキー經濟の確保の爲めに、企畫院側は相當数の學校卒業業者並に一般勞務者を毎年滿洲に割當られるのであります。人間の動員は、物と金の様に簡単に導入する事は極めて困難なのであります。折角企畫院が國策遂行の觀點より滿洲に相當数の人を割當られても、肝腎の人は申上げるまでもない事で御座います。折角企畫院が國策遂行の觀點より滿洲に相當数の人を割當られても、肝腎の人が滿洲建國の重要性を深く認識して居らない爲め、募集に際しては滿洲側の各機關は非常な困難を痛感しつゝあるのであります。各階級を通じて、身を挺して滿洲建國の理念を把握實踐しやうと云ふ人が非常に尠くないと云ふ事は、一面滿洲建國の理念なり、滿洲の一般事情を認識する機会を求めて求め得ないが爲めに、滿洲に對する熱意がないのではな

いかと思ふて居る次第であります。

滿洲に關する事情紹介に就きましては、滿洲國側官民は勿論、日本朝野に於かれましても色々御努力下さつて居るのであります。今般西日本各地に結成されたる各研究團體に依りまして、滿洲事情紹介、換言せば滿洲に關する啓蒙工作を各位のお力に依りまして積極的に今後實施して戴けば、自然に優秀な人を滿洲に送り出してもらう様になると確く信じ、御參集の各位に更に一段の御協力をお願いし、且つ研究会を通じ滿洲建國の生成發展に翼賛せられん事を期待して止まない次第であります。

滿洲國は今や第一次産業開發計畫を完遂し、引續き明春より第二次産業開發計畫を實施せんとしつゝあるのであります。『持てる國滿洲國』の資源開發には資金、資材と同様、多數の要員を必要とするのでありますから、國防第一線た

る滿洲であり、大和民族の大陸發展の據點たる滿洲であり、國防資源開發の滿洲たることを汎く普及徹底せしめて戴き、歴史的にも又地理的にも滿洲と因縁淺からざる西日本各地より、多數優秀なる各位の後輩を滿洲建國の聖業達成の爲め送出するやう、格段の御配慮を重ねてお願い申上げる次第で御座います。（拍手）

**中尾都昭**（佐賀大陸研究会） 滿鐵案内所に一寸お願いがあります。研究会々員を大體三十名と云ふことに限定して居りますが、これには相當の非難があります。本會には大陸に關係がある方で、お世話の出来る様な人が大體これに加盟して居ります。こう云ふわけで、大陸の方によく慰問に行くとか、視察に行くとか云ふ場合に本縣の縣人會その他各種の縣人會でお世話をよくして貰つて居るのであります。

ところが、今度學校の先生達が視察に行き、向ふでお世話になり非常に歓迎されたと云ふ。其處で今度は向ふの人が歸つて來ても、どうもお世話する人が居らぬと云ふわけで殆んどその招待若くは色々の經費を私の方で負擔して居ります。又歡迎會の費用も會員が負擔し、月に二、三百圓も料理屋に支拂ふ事もあります。殊に正月の如き、一千圓も料理屋の支拂ひがあると（笑聲）非常に私の方も困るのであります。そこで、この研究会の人が滿洲の方に視察に参りました時には、縣人會へ連絡をとつて世話をする前に滿鐵案内所の方の各機關に相談して連絡をとつて貰ひたい。又研究会ばかりで世話すると云ふことになると、研究会を頼つて來られた時に、晝なら晝食の相談までしてやらねばならぬと云ふことは相當金が必要なのでありますから、會員に何等か特典がなければならぬ。滿鐵の方でも何等か特典を考へて戴きたいと思ひます。

**竹内 勳**（宮崎大陸事情研究会） 先程中保副部長のお話の中に、東亞局と興亞聯盟でいろ／＼催しがあると聞きましたのであります。先般來大使館の方へも連絡をとつて戴きまして、西日本大陸研究会を開催する事が出來たのであります。今後は、各地研究会にも連絡をとるやうにお願いする次第であります。

又、東亞局などのお催しが、突然各縣の翼賛會支部などにお話があるやうなことはないかと臆測されるのでありますが、その場合にも當然各縣連絡をとつて、大陸研究會にも何處に何があるかと云ふことを續々仰せ付けて下さい。而して縣に参りましたならば、土地の研究會とも連絡をとつて總ての催しをされると云ふことは、私達としても、これに盡力出来るのではないかと存じます。講演會なり座談會にしても、出席して直接お話を聴きたいと云ふ希望に燃えてゐる連中でありますので、大抵何か名目を付けて座談會を催すと云へば集つて来る連中であります。それが大陸研究會の主催であらうと、翼賛會の支部主催であらうとならば差支えないのであります。

今後吾々にも御相談が願ひたいと思つて居ります。勝手なお願ひでありますけれども、どうか宜敷く願ひ致します。

溜 (門司鮮滿支案内所旅客係) 先程大陸研究會の皆様からお話がありましたので、案内所として一寸お答へ申上げます。實は鮮滿支案内所は十數年の歴史を持ちまして、大陸の認識を内地の人々に植付ける爲め相當の努力をして來ました。それと共に、大陸關係の團體を作ると云ふ事も遣つて参りましたが、都合により本年六月一日から私の方で従來遣つて居ります團體の方の幹旋は一切しない事になつて居りますが、特に皆様の御希望もありますので、この大陸研究會の主催になります團體に限り、さう云ふ御希望があれば、事前御連絡があれば御希望に副ふやう致したいと思ひます。

粕谷 他に何か御質問なり御意見がありましたら御遠慮なくどうぞ。

溜 時間も大變迫りました。未だ他に御意見はありますと思ひますが、時間の都合上、その他のお話は宴會の席上でゆつくりと致すこととして、懇談會はこれを以つて打ち切りたいと思ひます。私進行係として皆様にお禮を申上げたいと思ひます。

本日大陸研究會を開催致しまして私進行係を勤めさせて頂きましたが、その間いろいろ不躰けな點もありました。しよ、又不満足な點も多々あつたと思ふのでありますが、その点何卒御勘辨願ひます。茲に無事進行係の大任を勤めさせ

て戴きましたこととお禮申し上げます。(拍手)

#### 閉 會 の 辭

奥村 所長 本日は各地研究會、協會、聯盟等、指導機關の中心の各位が、御多用中特に本大會の爲めに御差繰りお集りを願ひ、昨年来内外諸情勢の動向に率先指導的お役割を以つて御結成になつた各機關の盛り上る意氣をお示し願ひ、又、東京からは大使館を始め、各本部側主腦者の方々並に翼賛會の重任に在らる、閣下並に各位の御列席を願ひまして、豫てお聞き及びの西日本各地指導機關の實相を親しくお聞き取り願ひました事は、平生幹旋役を努めて居る私共にとりましては大なる力となつた次第でありまして、従つて甚だ微力ではありますが、今後一層力を盡さねばならぬと更に感銘を深く致した次第であります。特に先刻御披露になりました決議に對しましては、案内所は各機關の中に立ちまして出来るだけの御幹旋に當るとお答へ申上げて置き度いと存じます。

此の際お願ひ致して置き度い事は、本部側各機關に於ては絶えず新鮮なる資料の御提供、又講師の派遣等に御配慮を願ひ、又各研究機關に於かれましては、案内所の探るべき道につきお氣付のことは何時にても御遠慮なくお聞かせ願ひたい事であります。

本日は皆様長時間に亘りまして熱心なる御意見の御交換を得まして、近來一寸他に比類を見ないとも云ひ得る充實した大會を完うする事が出来ました事を改めてお禮申上げ會を閉じたいと存じます。(拍手)

溜 大會はこれを以つて終りと致します。下關市の春帆樓に、甚だお粗末ながら設備申上げてあります。非常に遠いので御苦勞様でございますが、その方まで御足勞願ふ事に致しまして、唯今から私の方で御案内申上げます。

かくて一同宴會場たる下關市春帆樓に向つた。(散會時間午後六時五十分)



昭和十七年六月十三日印刷  
昭和十七年六月十八日發行

【非賣品】

門司市西海岸通り四番地ノ八

發行所

南滿洲鐵道株式會社  
門司鮮滿支案内所

門司市西海岸通り四番地ノ八

發行兼  
編輯者

奧村純松

門司市仲町七丁目

印刷所

渡邊印刷所

門司市仲町七丁目

印刷者

渡邊信人



終

